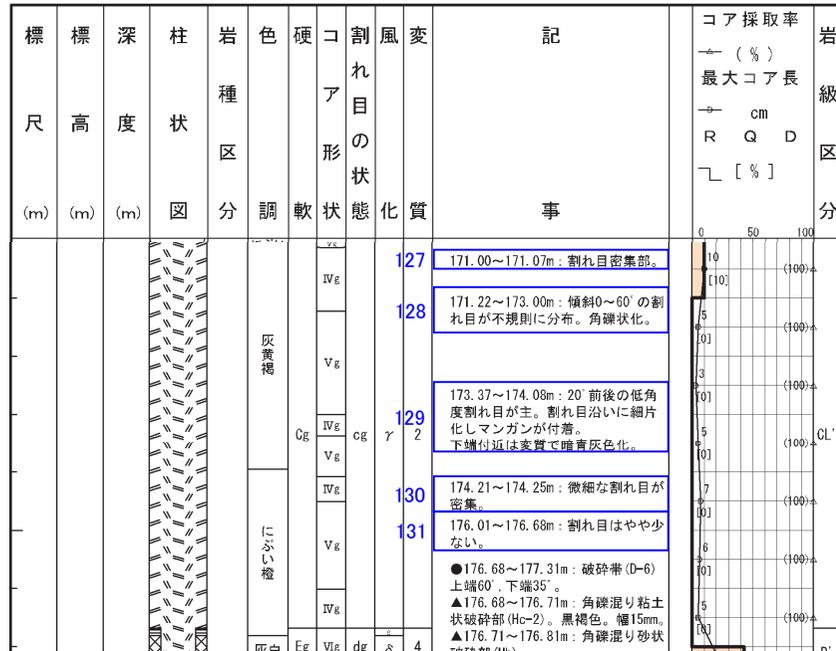
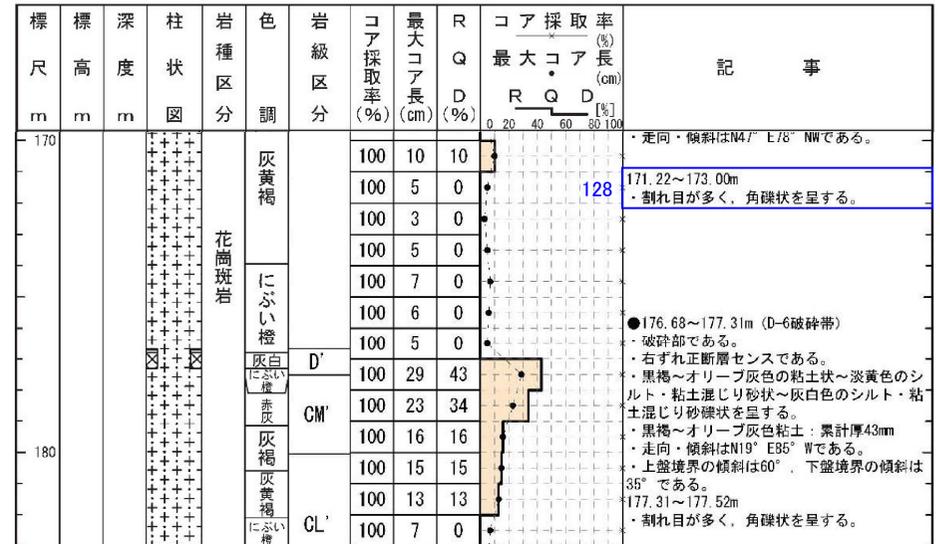


報告書作成用柱状図
(H26年10月)



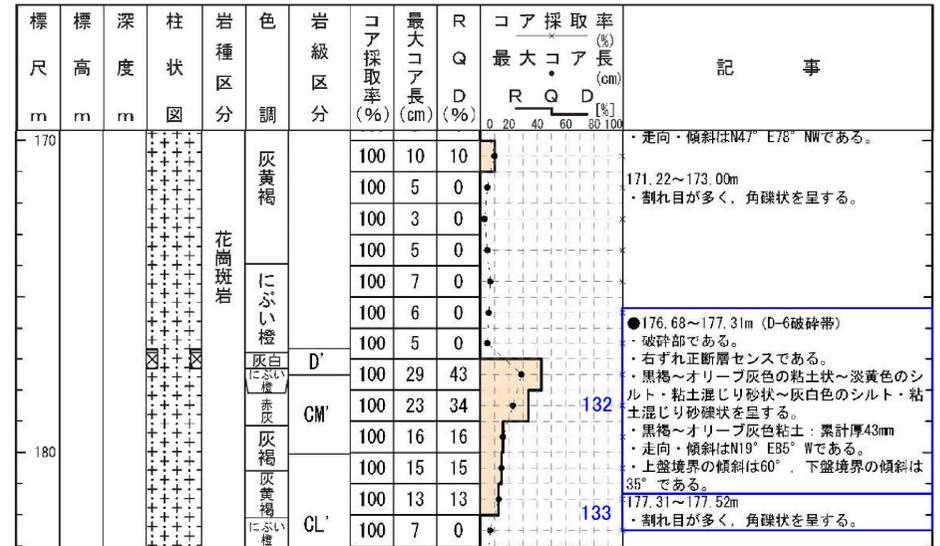
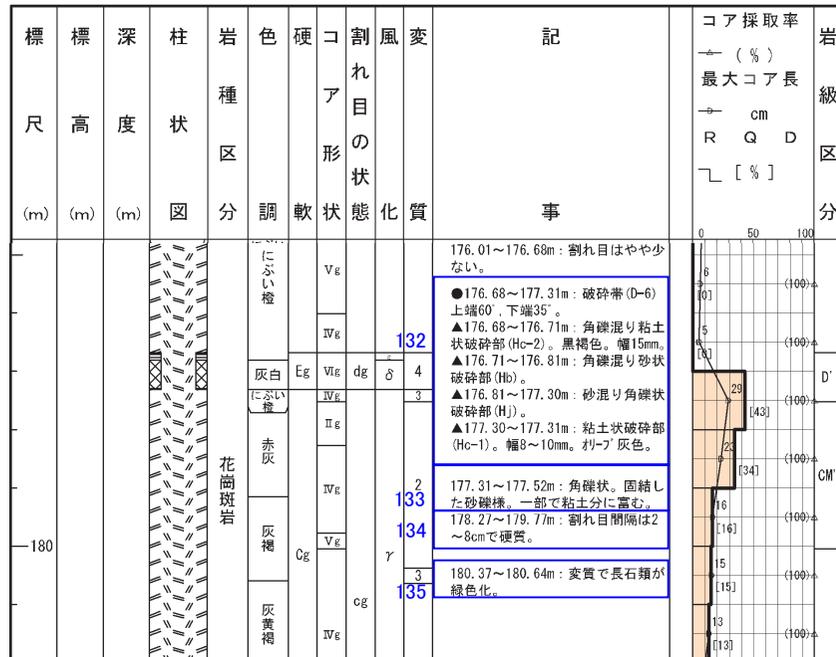
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
127	・割れ目が密集しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
128	・割れ目が密集しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
129~131	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色、マンガン付着については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

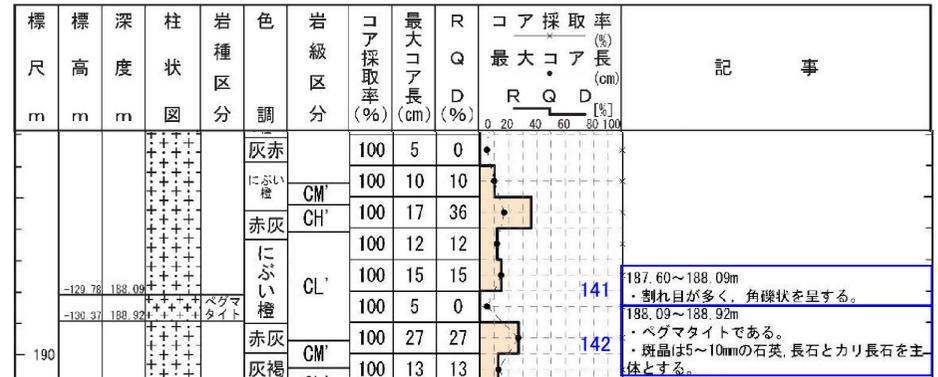
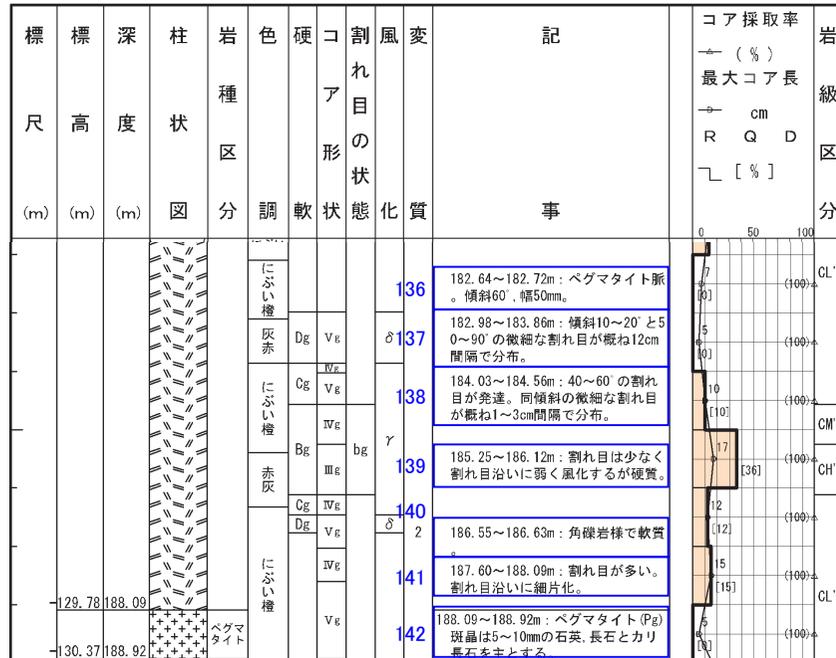
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
132	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
133	・一部で粘土を含むが、粘土の配列が系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
134	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
135	・長石類の緑色化については、変質に関する補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

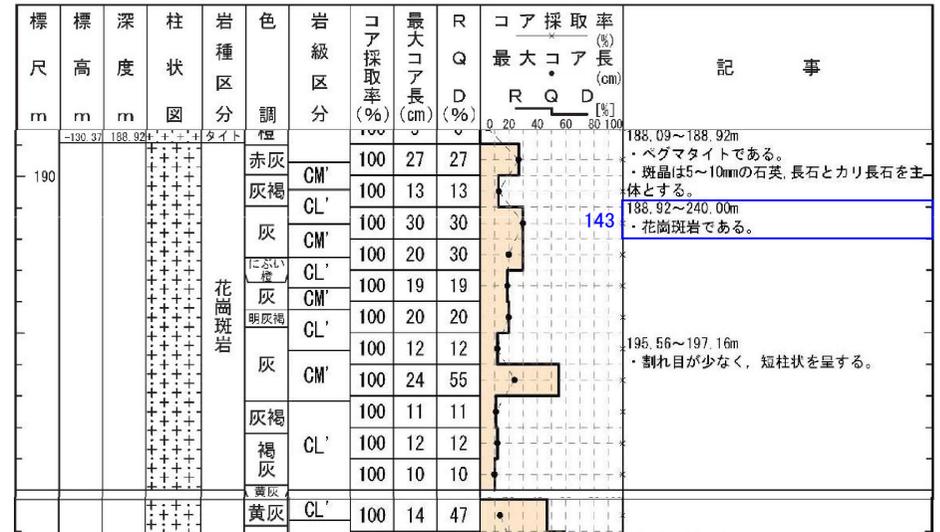


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
136	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
137	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
138	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
139	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
140	・マンガン汚染により、角礫岩様に見えるものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
141	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
142	・変更なし

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

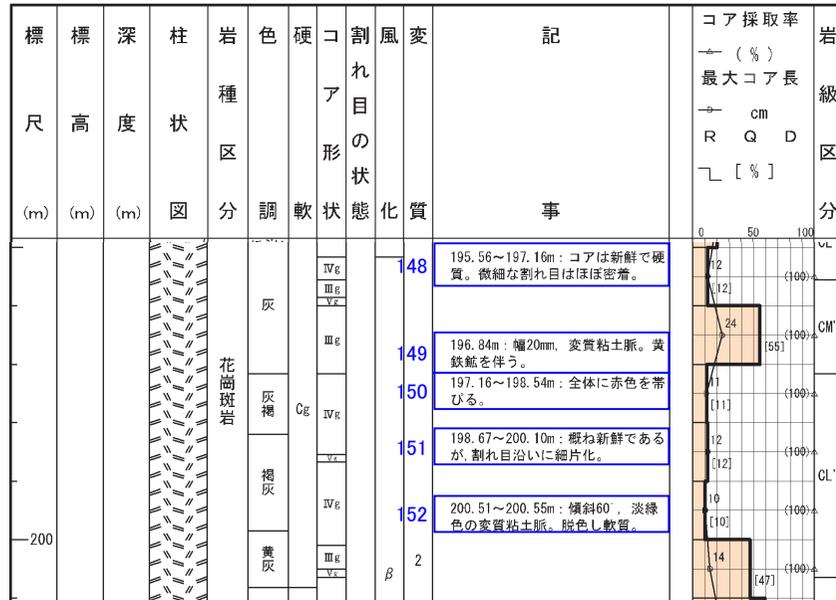


申請書用柱状図

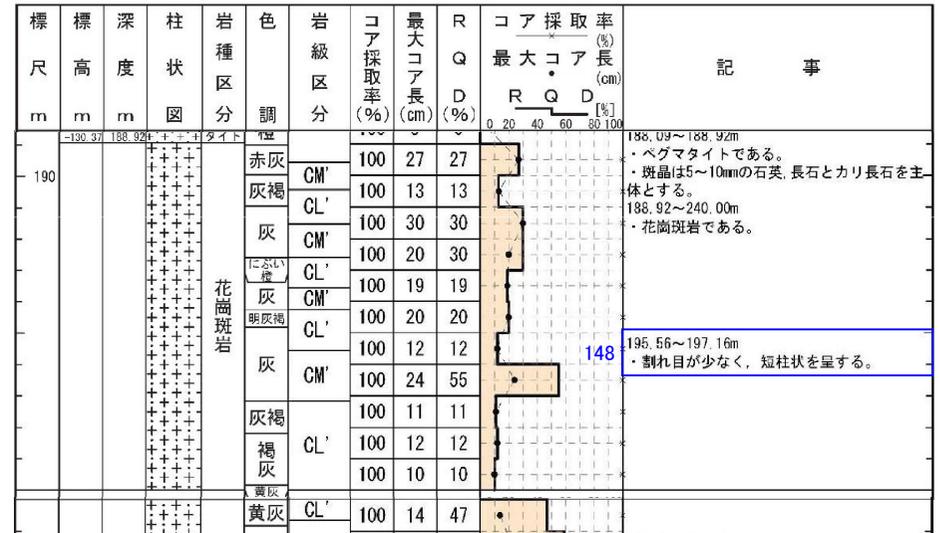


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
143	・境界の傾斜の記載については、補足的なものであるため削除。 ・岩盤状況については、特徴的な区間毎に別途記載することとしているため、境界の岩盤状況については削除。
144	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
145	・細粒物質を伴い軟質化するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
146	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
147	・粘土を挟み込むが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)



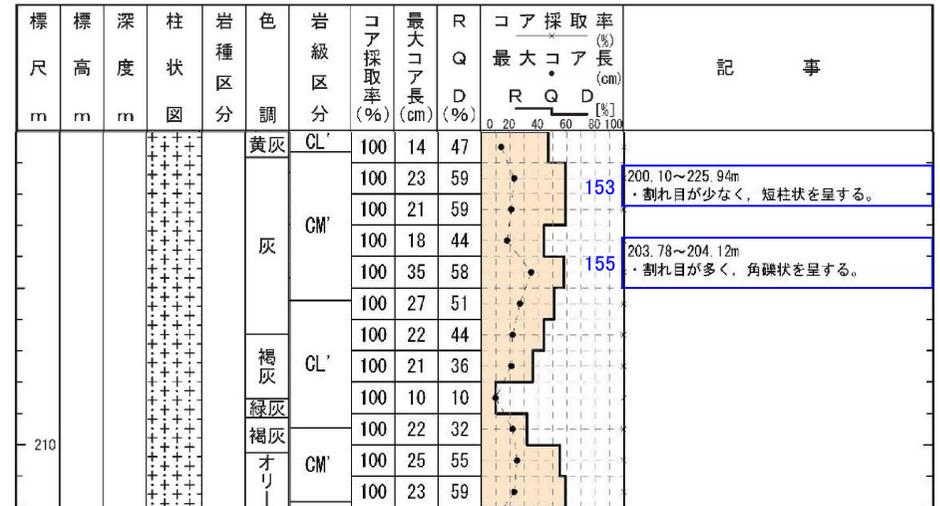
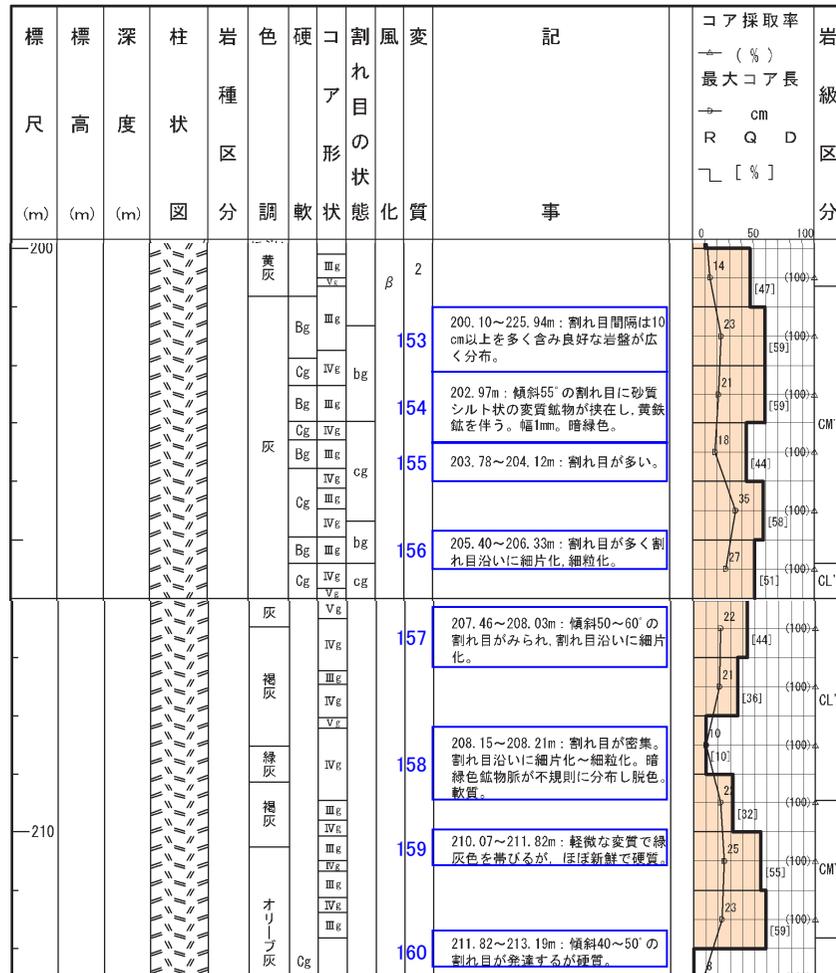
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
149	・粘土を挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出の記載については、補足的なものであるため削除。
150	・色調については、補足的なものであるため削除。
151	・割れ目沿いに細片化しているが、掘削時の機械割れと判断して削除。
152	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。

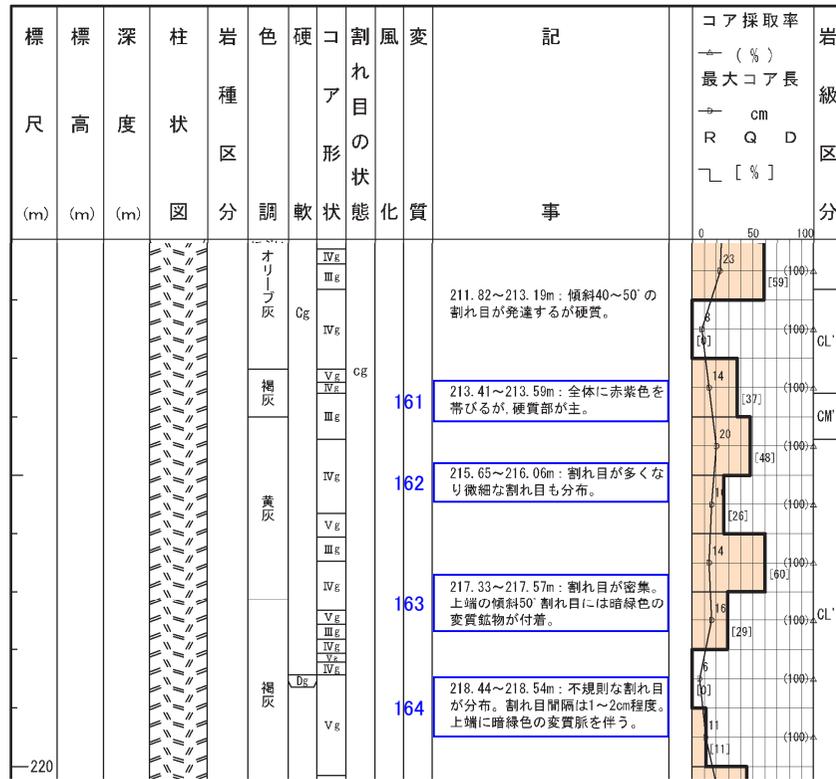
報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

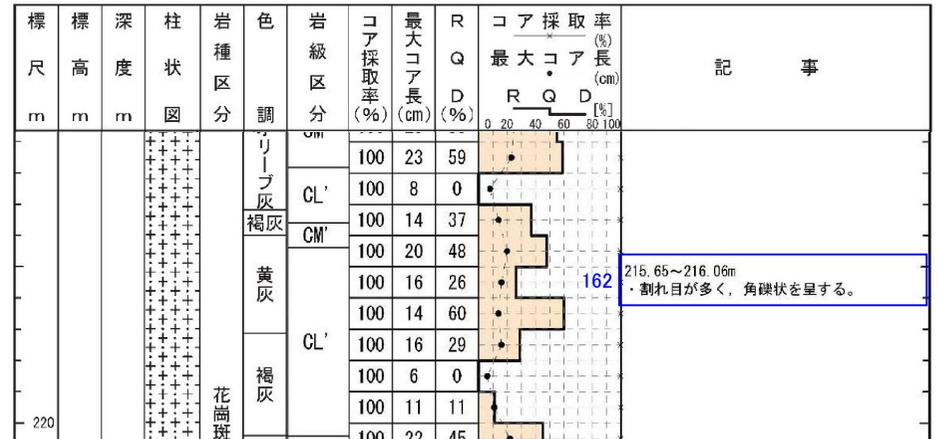


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
153	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。
154	・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
155	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
156~160	・比較的硬質な区間であり、一部割れ目沿いに細片化するが、挟在物の連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)



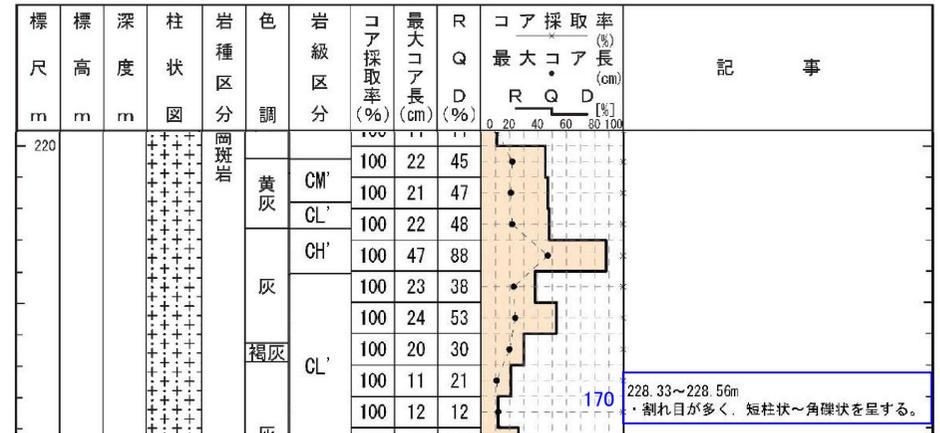
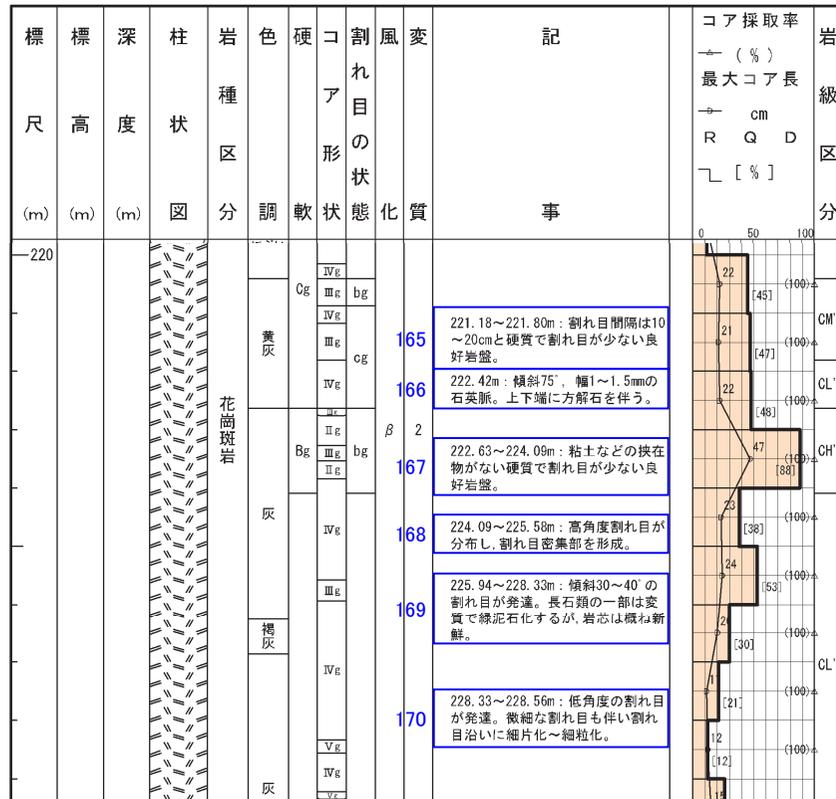
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
161	<ul style="list-style-type: none"> 比較的硬質な区間であり、一部割れ目沿いに細片化するが、挟在物の連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 色調については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
162	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
163, 164	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 一部割れ目沿いで、変質脈の挟在が見られるが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

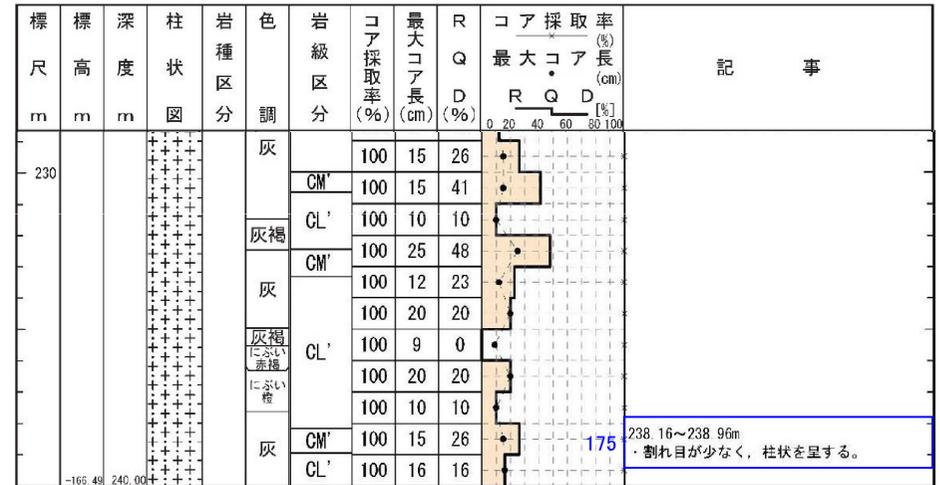
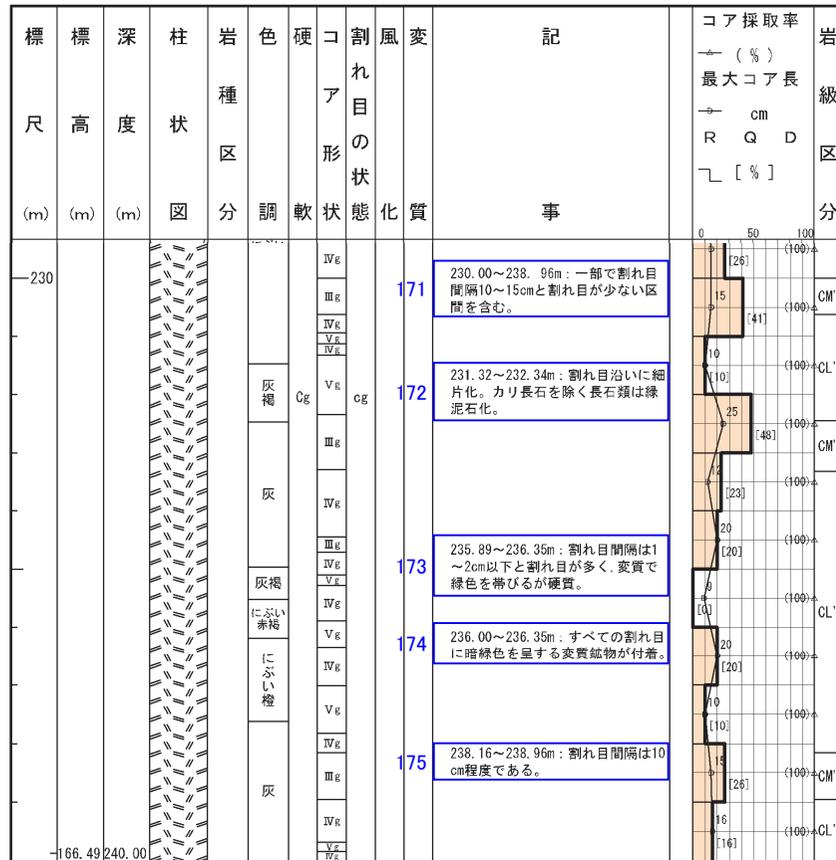
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
165~169	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 一部割れ目沿いで、変質脈の挟入が見られるが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 長石の変質については、補足的なものであるため削除。
170	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達の程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状~角礫状と記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
171	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
172	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・長石の緑泥石化については、変質に関する補足的なものであるため削除。
173	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
174	・割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。
175	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。

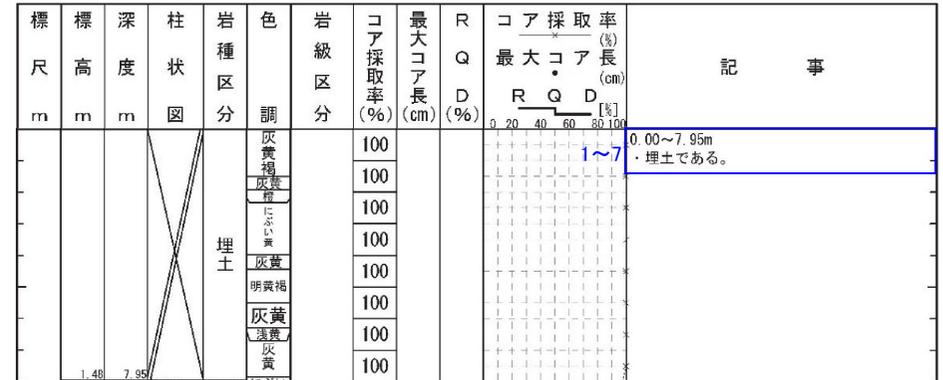
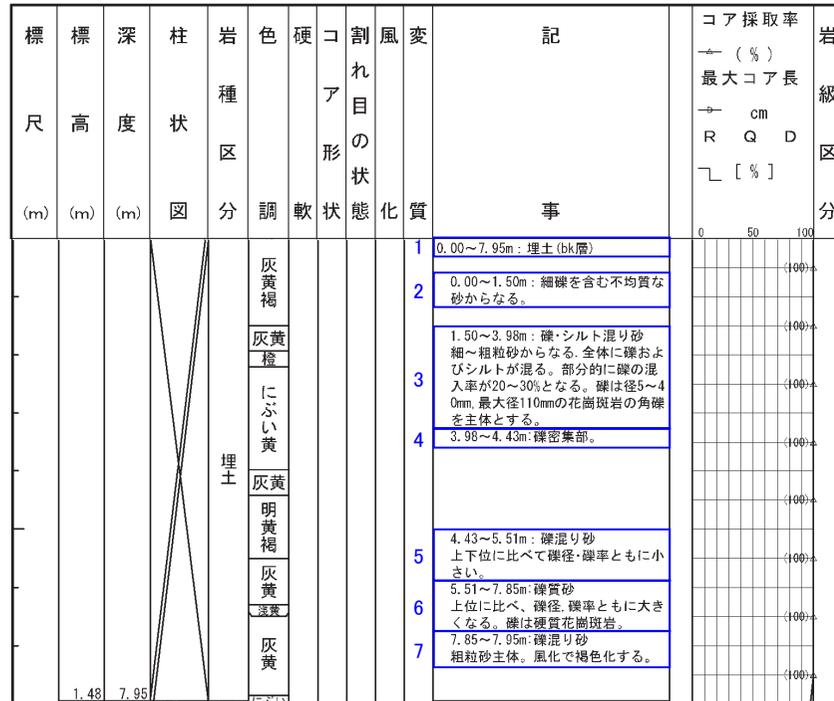
余白

H24-B11-1

余白

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

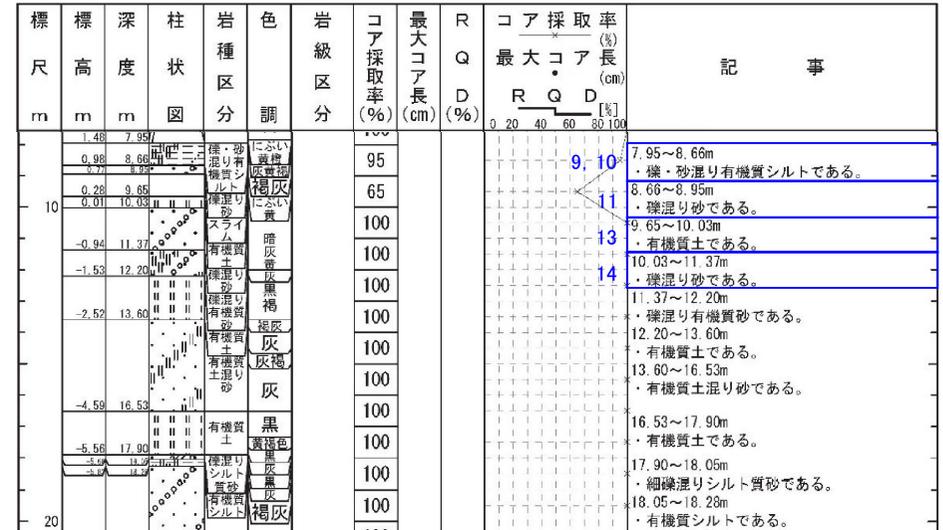


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
1~7	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



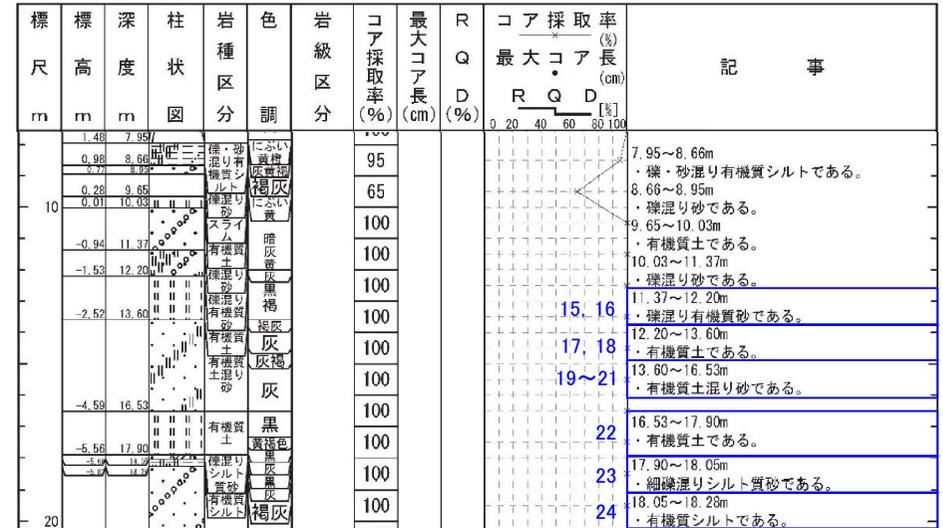
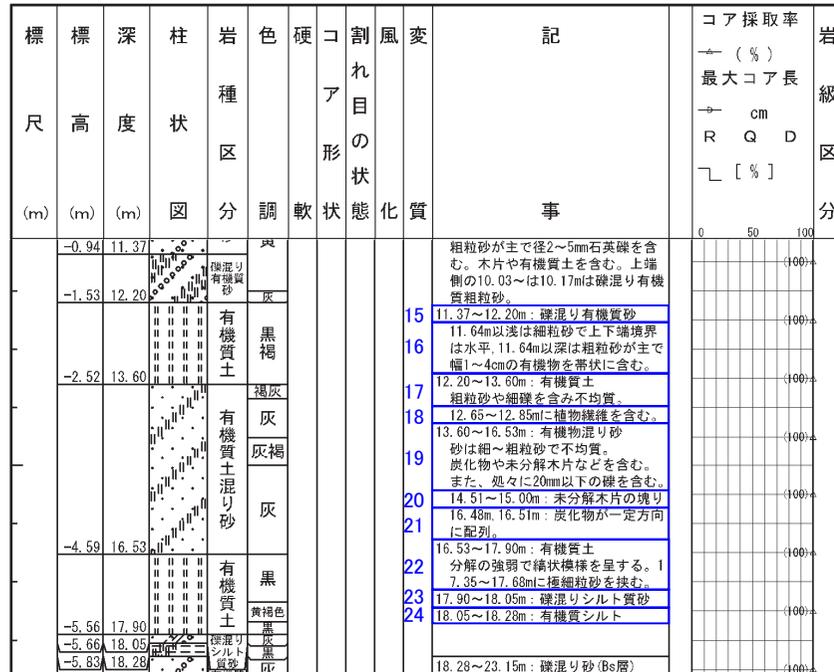
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
8	・区間毎の性状を個別に記載しているため、有機質土主体とのまとめ書きについては削除。
9, 10	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
11	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
12	・スライム区間については、“岩種区分”欄に記載しているため削除。
13	・変更なし
14	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

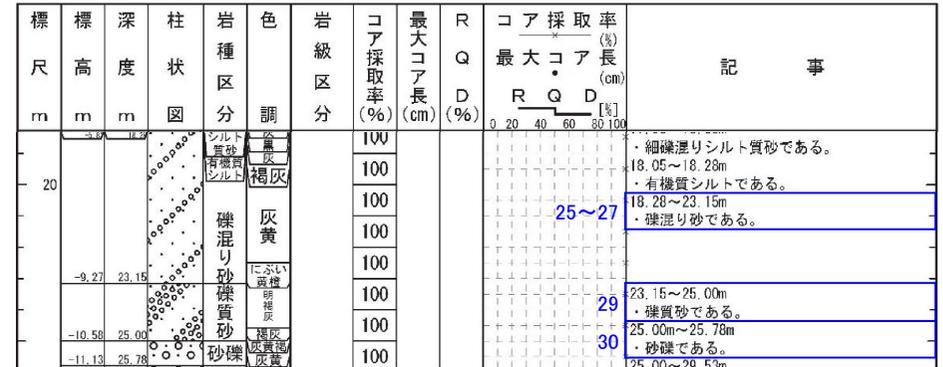
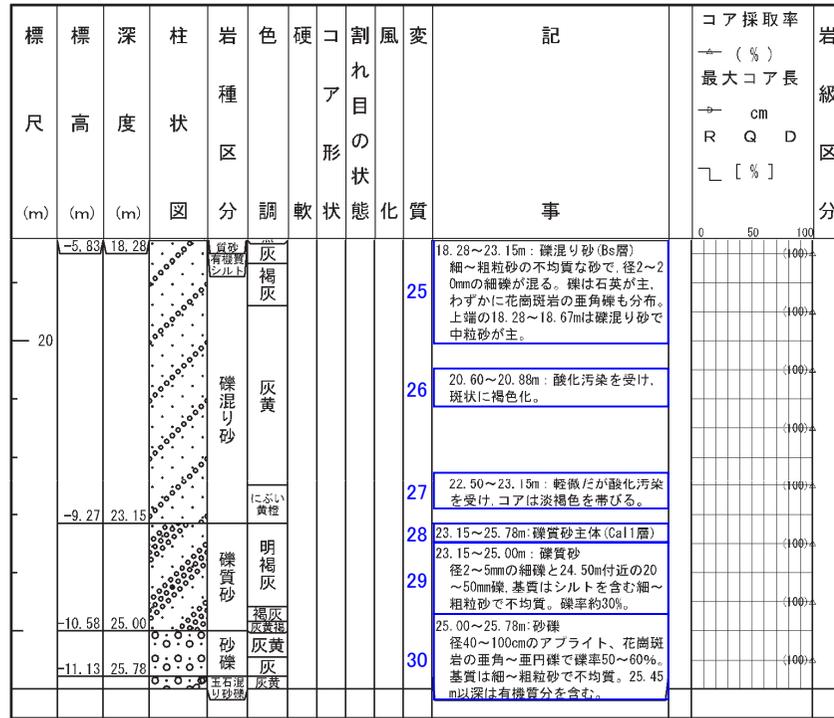
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
15, 16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17, 18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19~21	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
22	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
23	・表現の見直し(礫混り→細礫混り)。
24	・変更なし

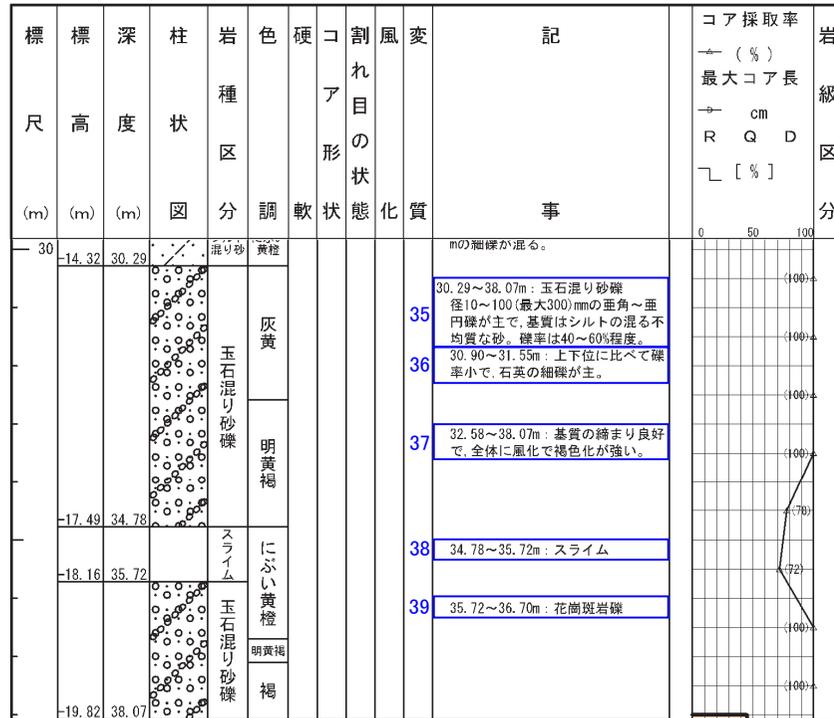
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

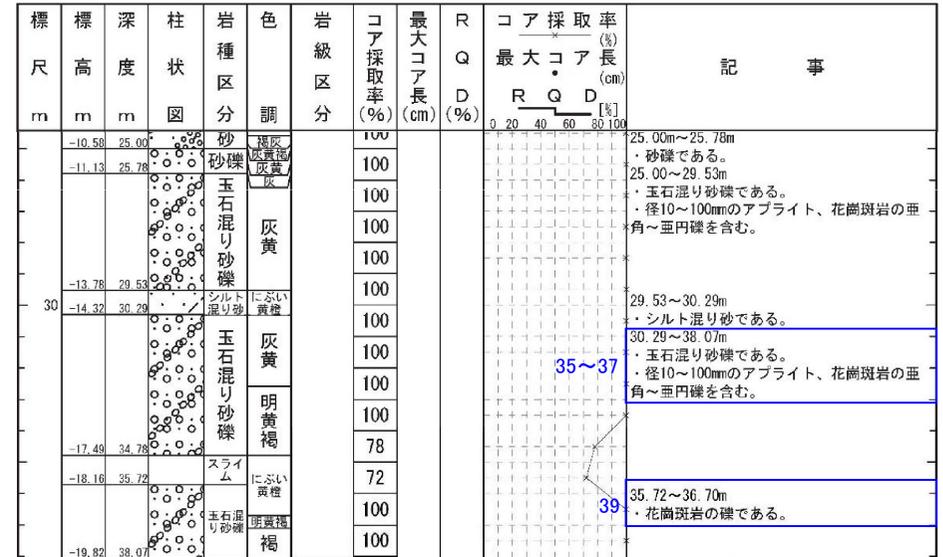


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
25~27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
29	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

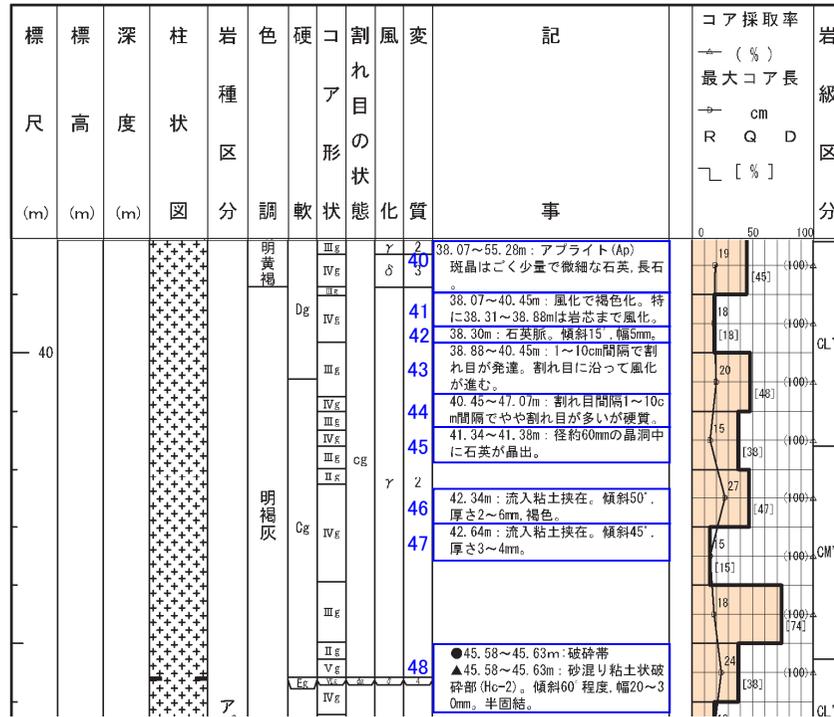


申請書用柱状図

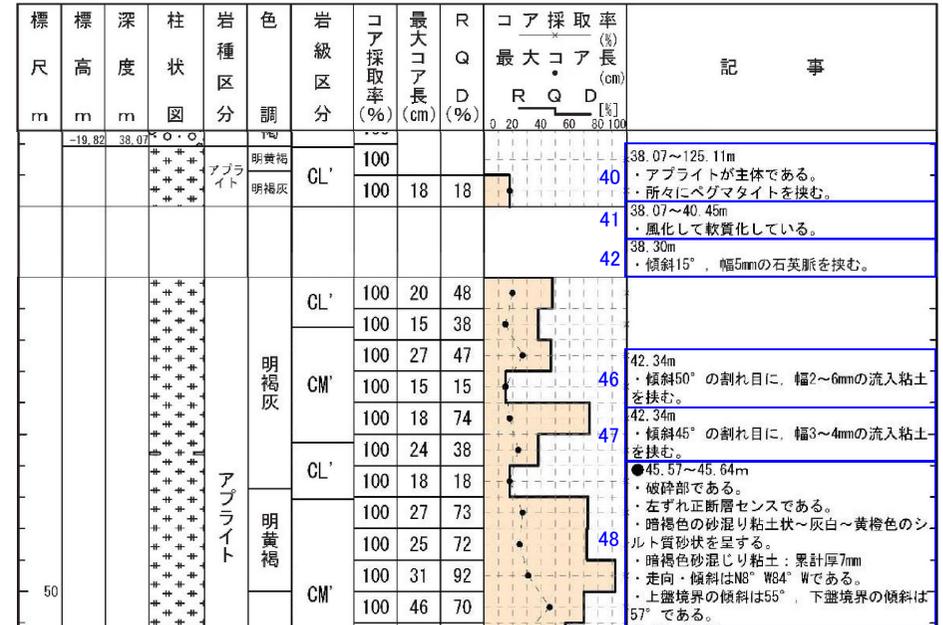


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
35~37	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、礫種、円磨度を記載。
38	・スライム区間については、“岩種区分”欄に記載しているため削除。
39	・変更なし

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



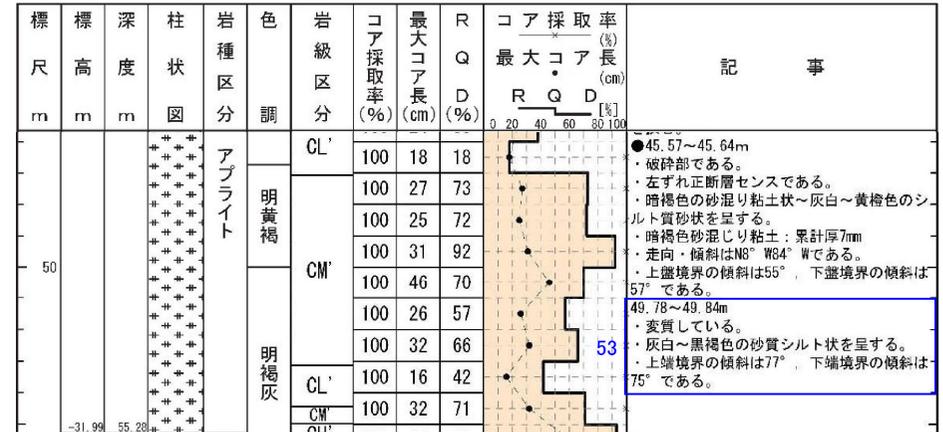
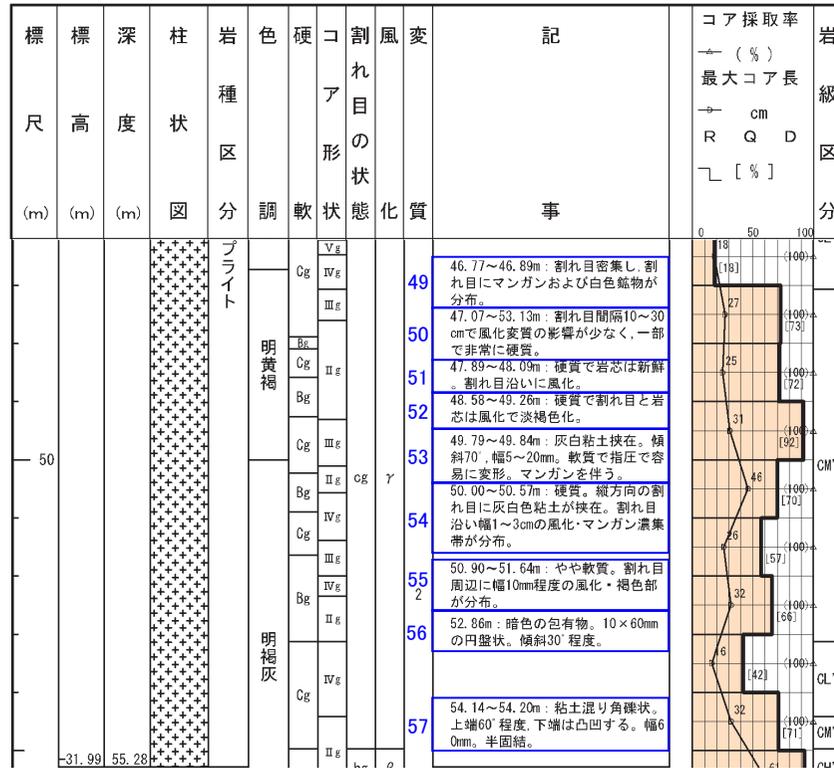
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
40	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な岩相であり、斑晶の種類については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 記事No.58,60,61,63に基づき、ペグマタイトの挟在を追記。
41	<ul style="list-style-type: none"> “硬軟”欄に基づき、軟質化していると記載。 色調については補足的なものであるため削除。 風化の程度については、岩級区分で示しているため、岩芯まで風化との記載は削除。
42	<ul style="list-style-type: none"> 変更なし
43	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いの風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
44	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
45	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。
46	<ul style="list-style-type: none"> 変更なし
47	<ul style="list-style-type: none"> 深度42.64m→42.34m^{※2}
48	<ul style="list-style-type: none"> 色調, 粒度, 粘土の累計幅, 境界の傾斜について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 深度45.58～45.63m→45.57～45.64m^{※2} 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

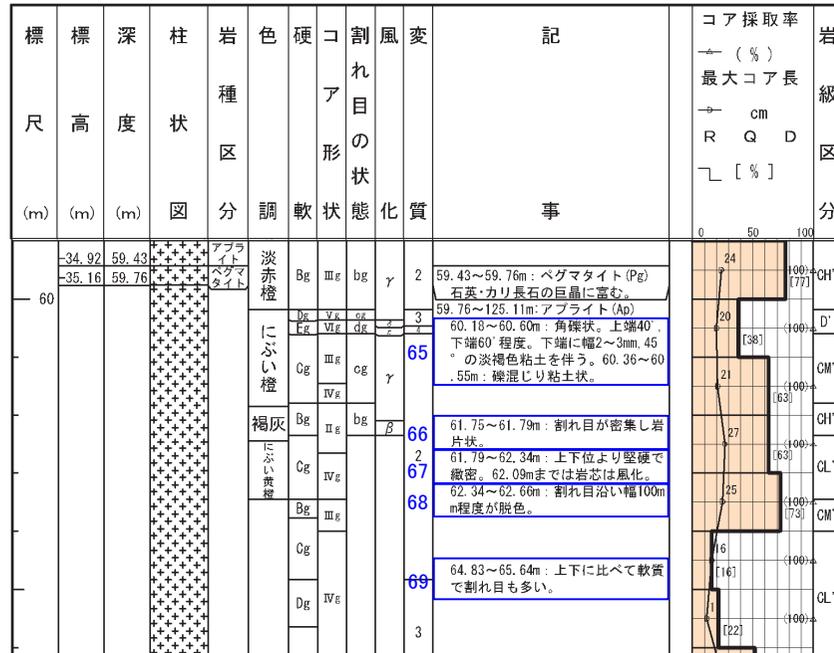
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

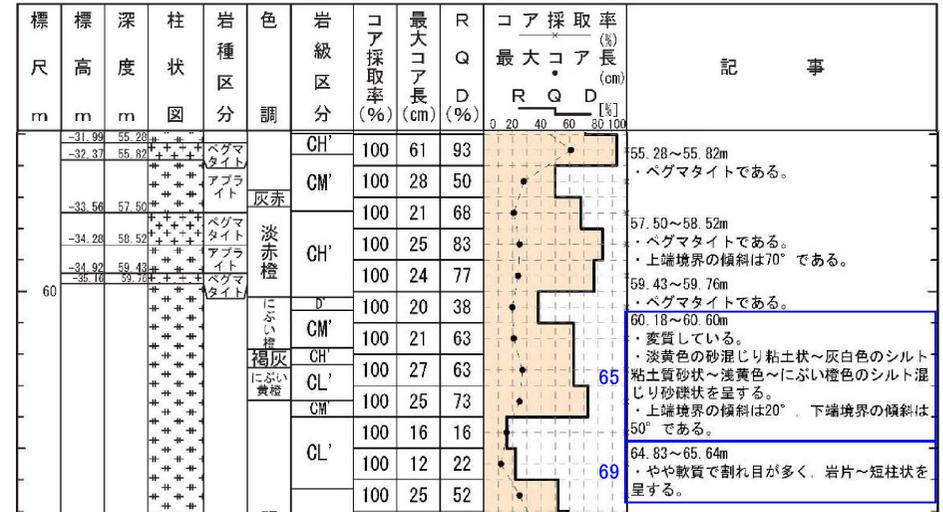


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
49	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いのマンガン、鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。
50	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
51	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。
52	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
53	・深度、変質、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。
54	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 ・粘土を挟在するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの風化、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
55	・割れ目沿いの風化、変色については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。
56	・包有物については、補足的なものであるため削除。
57	・粘土混じり角礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



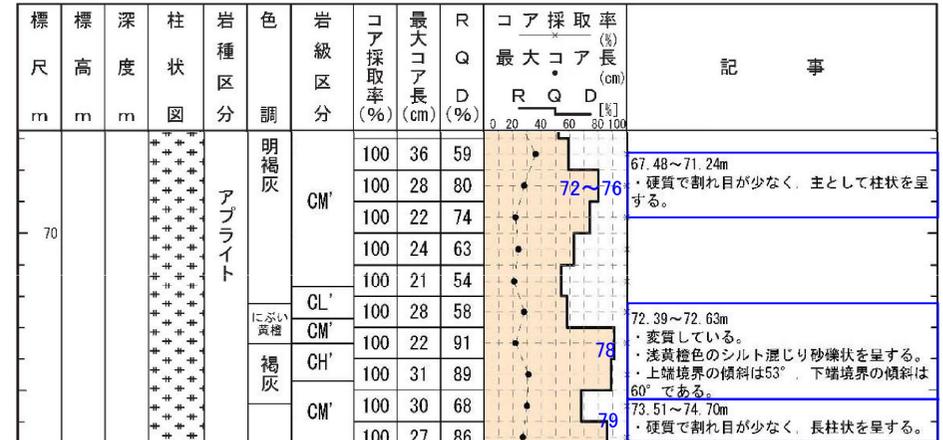
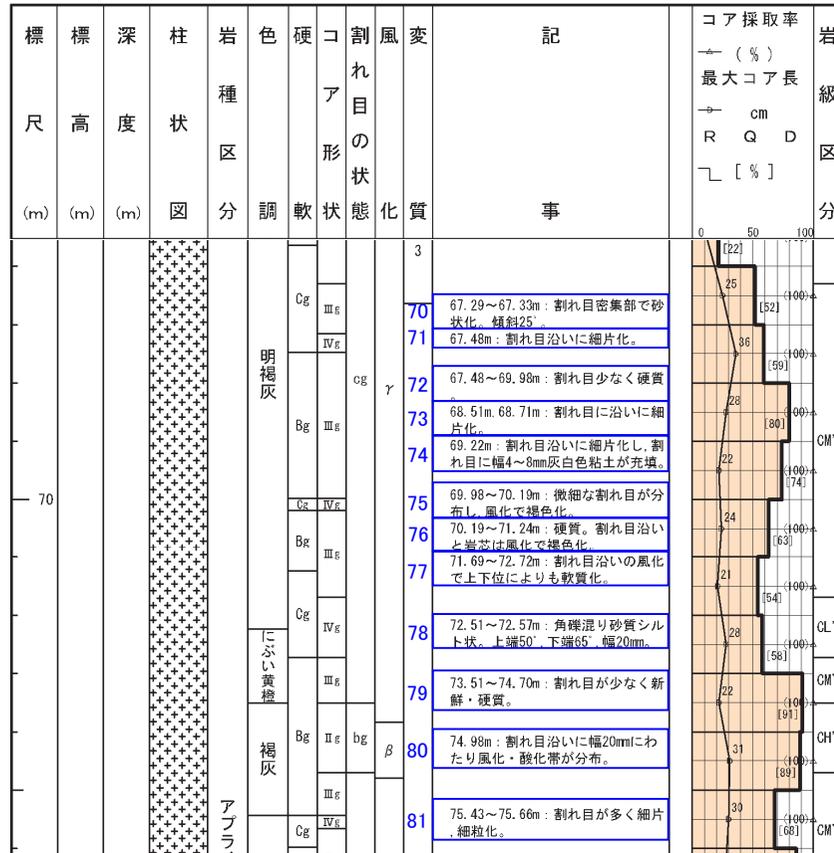
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
65	<ul style="list-style-type: none"> “変質”欄に基づき、変質していると記載。 色調、粒度については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。 上端境界の傾斜40° →20° ※1 下端境界の傾斜45° →50° ※2
66	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
67	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。 風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
68	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いの脱色については、補足的なものであるため削除。
69	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と追記。 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。

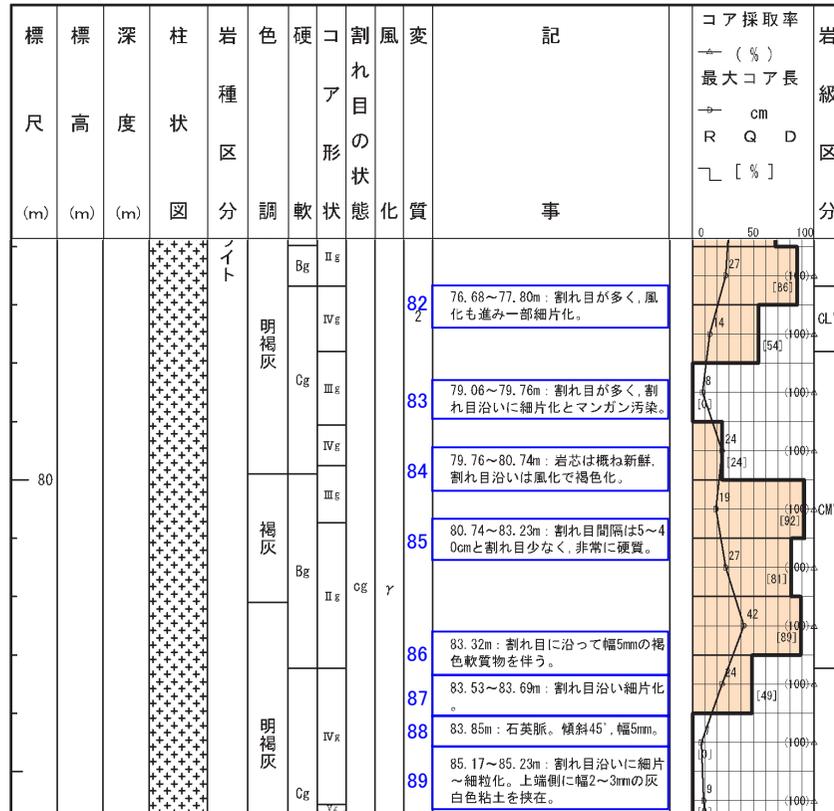
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

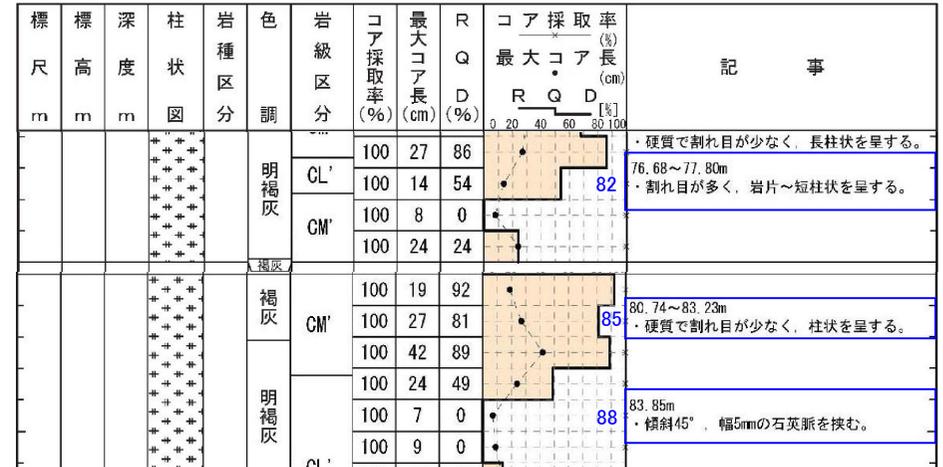


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
70	・割れ目が発達し砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
71	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
72~76	・“硬軟”欄に基づき硬質と記載。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・一部割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。
77	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。
78	・変質、色調、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした再観察の結果に基づき記載。 ・深度72.51~72.57m→72.39~72.63m※1、※4
79	・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。
80	・割れ目沿いの風化、酸化については、補足的なものであるため削除。
81	・割れ目沿いで細粒、細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

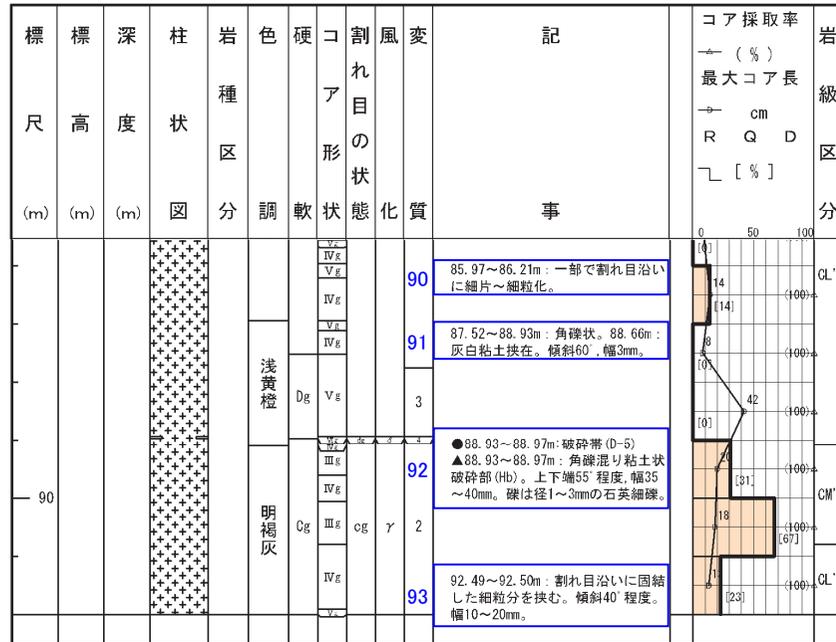


申請書用柱状図

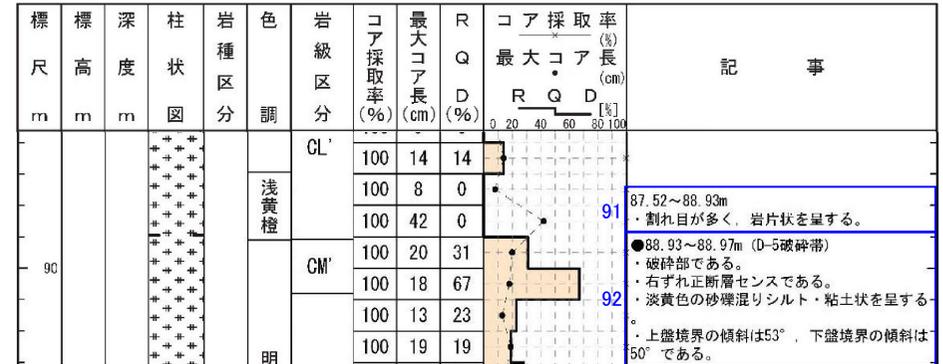


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
82	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と記載。 ・風化程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
83	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いのマンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
84	・風化程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
85	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
86	・割れ目沿いに軟質物を伴うが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
87	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
88	・変更なし
89	・割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが、粘土は直線性や連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



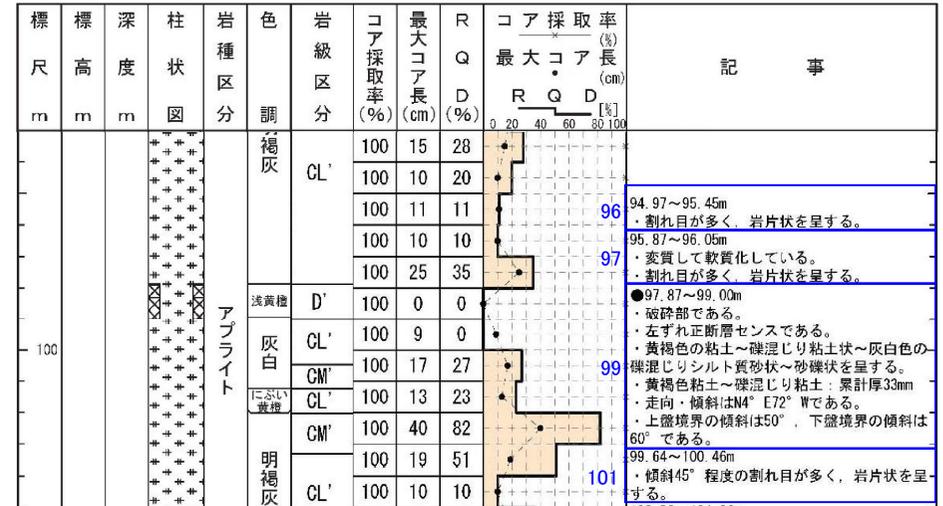
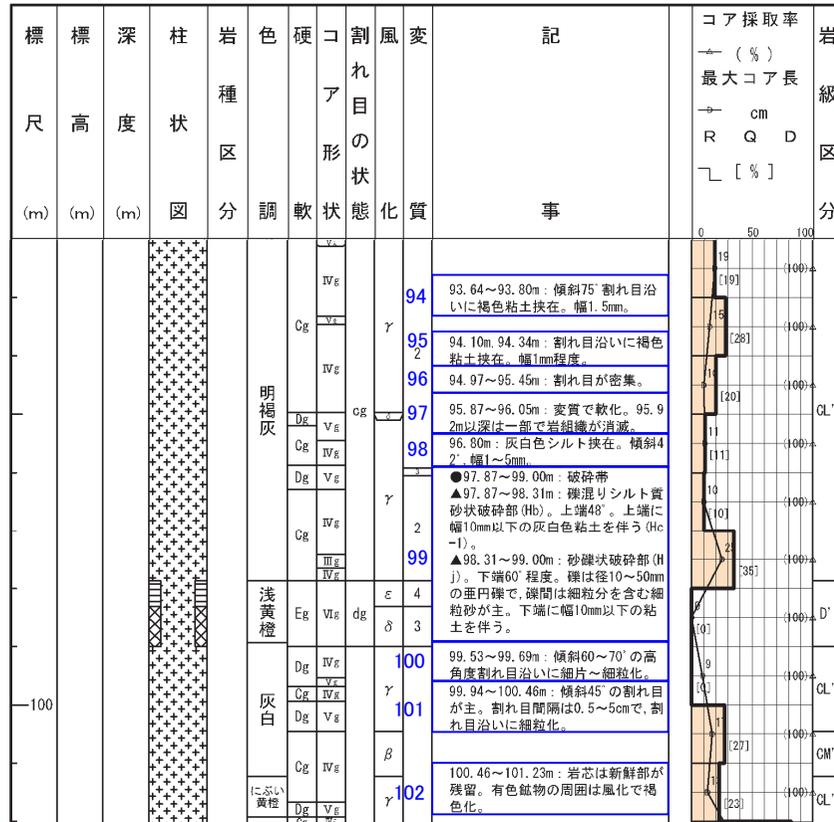
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
90	・割れ目沿いで細片~細粒化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
91	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
92	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。
93	・割れ目沿いで細粒分を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

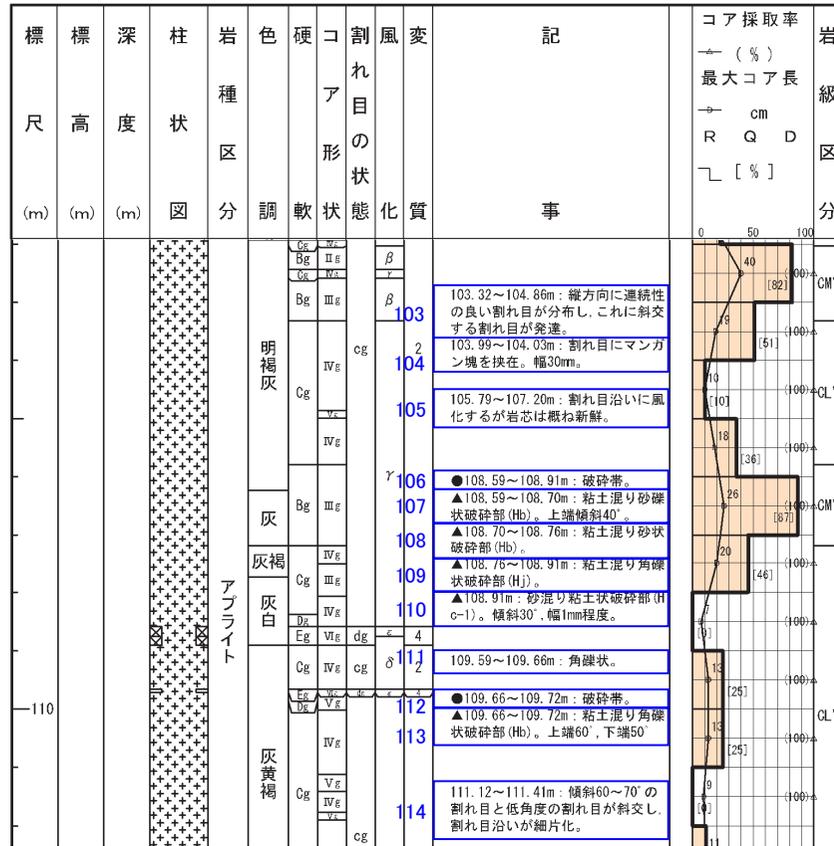
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

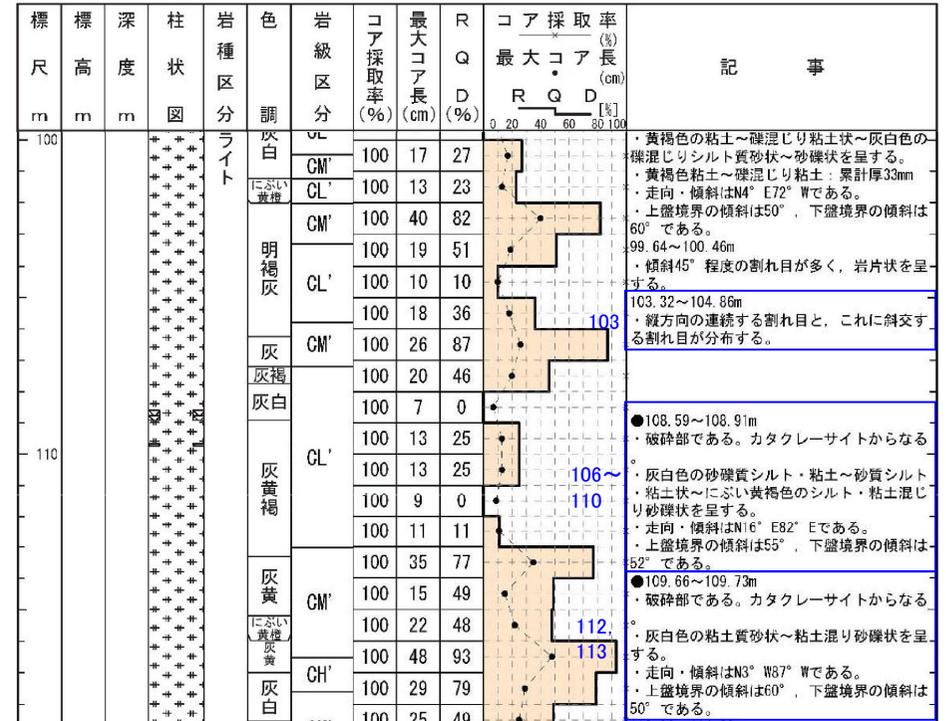


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
94	・一部に粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
95	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
96	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。
97	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
98	・シルトを挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
99	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調、粒度、粘土の累計幅、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
100	・割れ目沿いで細粒～細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
101	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・割れ目沿いの細粒化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・上端深度99.94m→99.64m ^{※2}
102	・風化については、岩級区分に含めて表示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



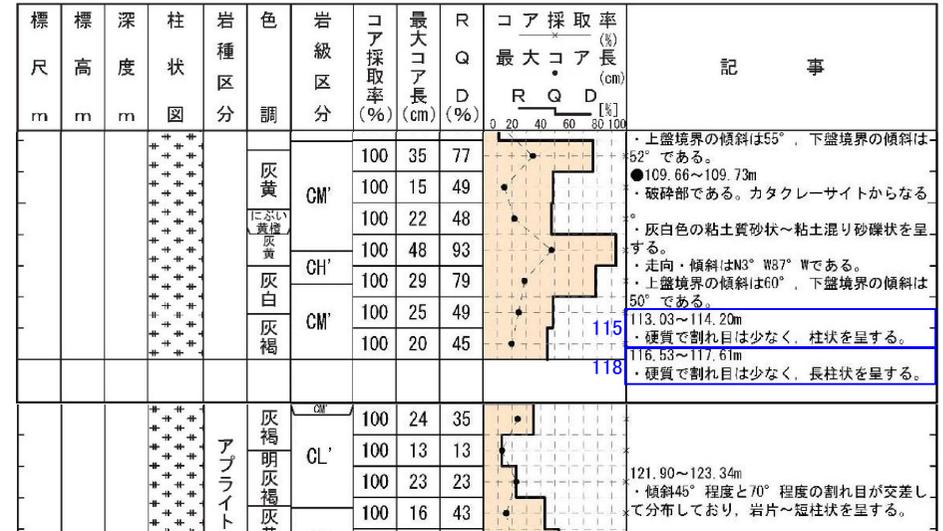
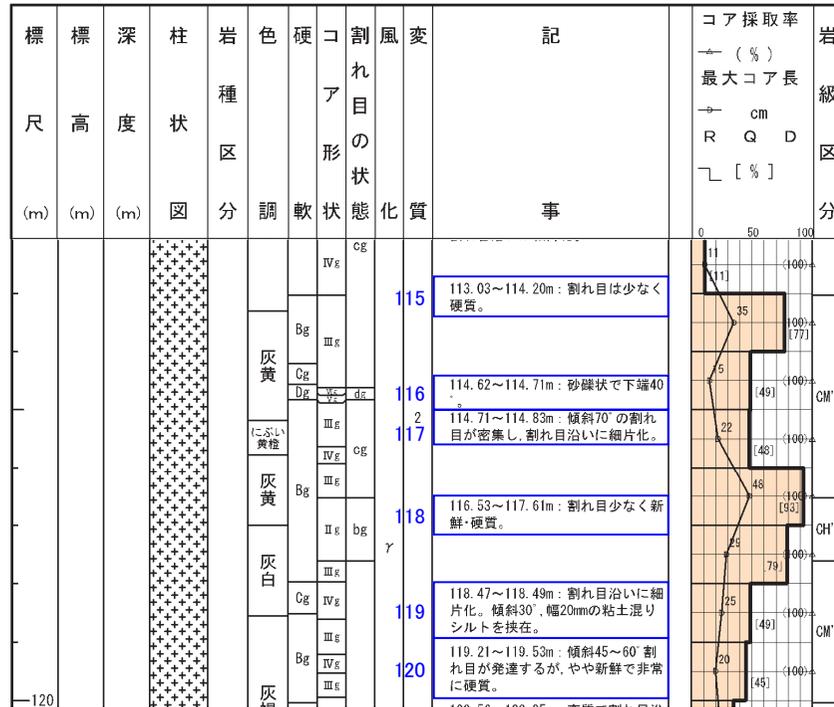
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
103	・変更なし
104	・割れ目沿いのマンガン塊の挟在については、補足的なものであるため削除。
105	・風化については、岩級区分に含めて表示しているため削除。
106～110	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・色調、粒度、境界の傾斜については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
111	・角礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
112, 113	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・色調、粒度、境界の傾斜、深度については、申請書前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
114	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

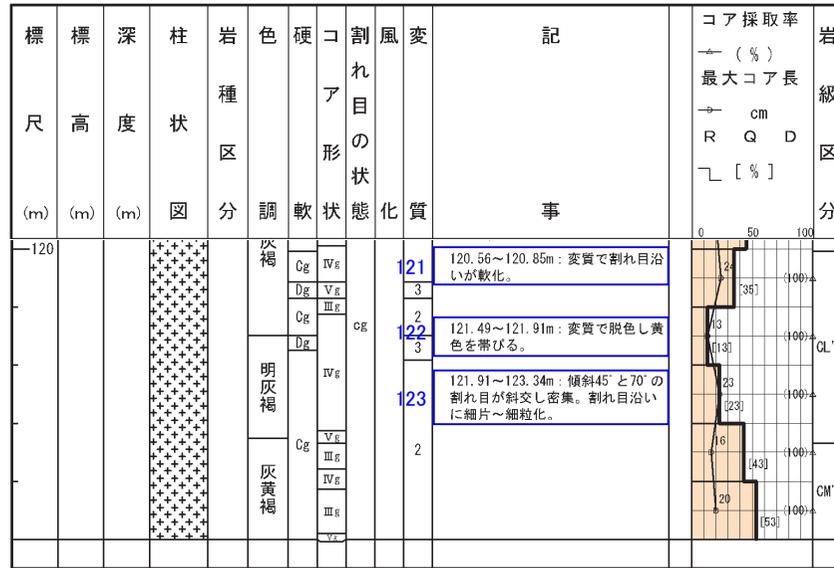
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

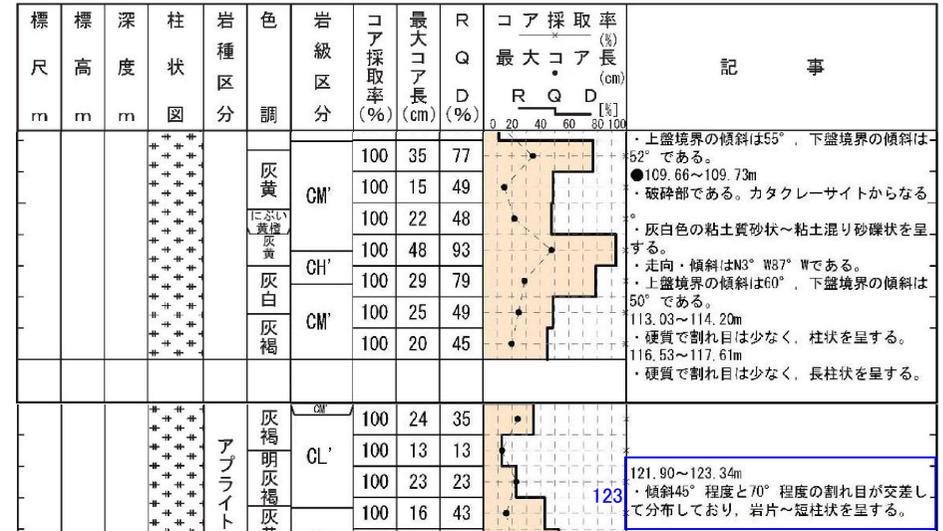


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
115	・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
116, 117	・割れ目が密集し、一部で砂礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められず、砂礫状部の礫に定向配列も認められないことから削除。
118	・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。
119	・割れ目沿いで細片化した粘土混りシルトを挟在するが、開口部にスライムが充てんしたものと判断し削除。
120	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

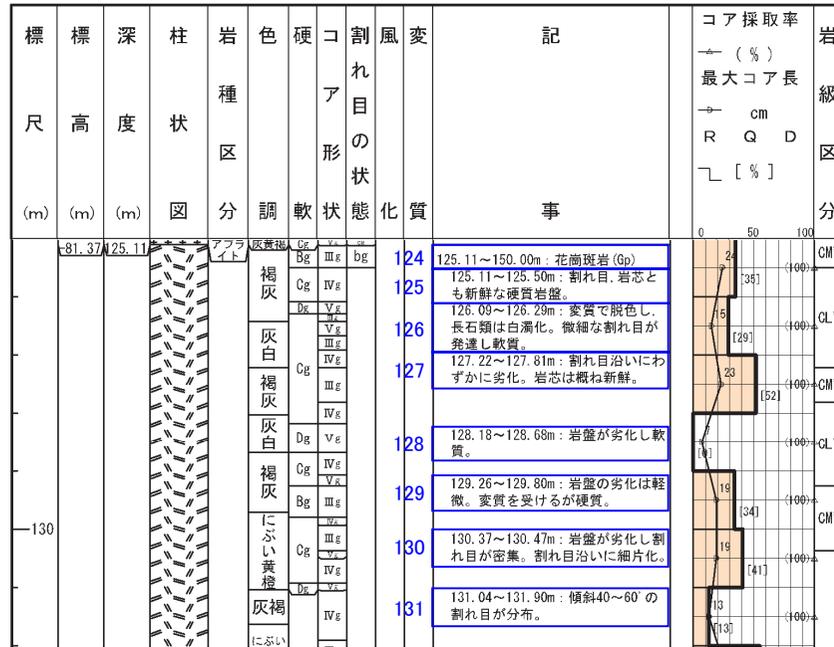


申請書用柱状図

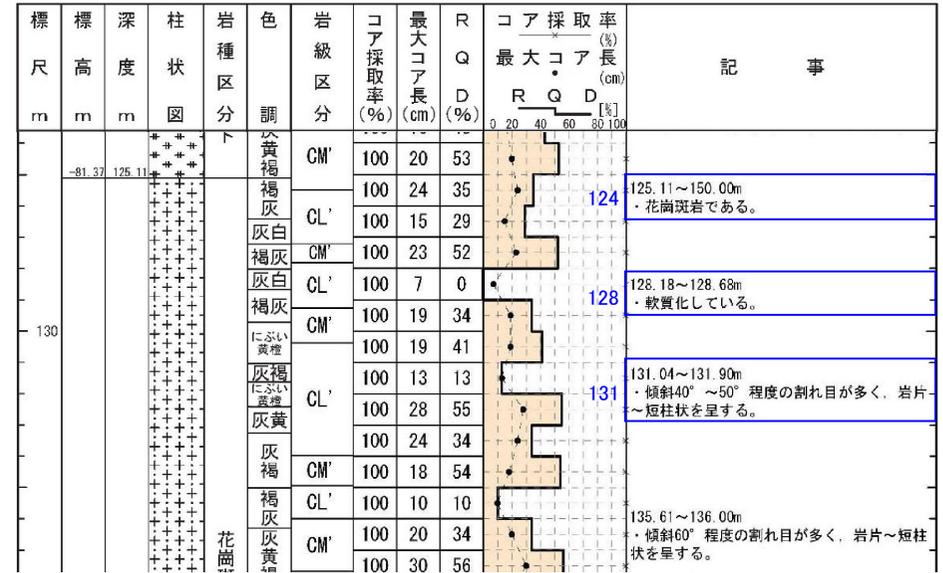


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
121	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
122	・色調については、補足的なものであるため削除。
123	・割れ目沿いに細片~細粒化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・“コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と記載。 ・上端深度121.91m→121.90m※1

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

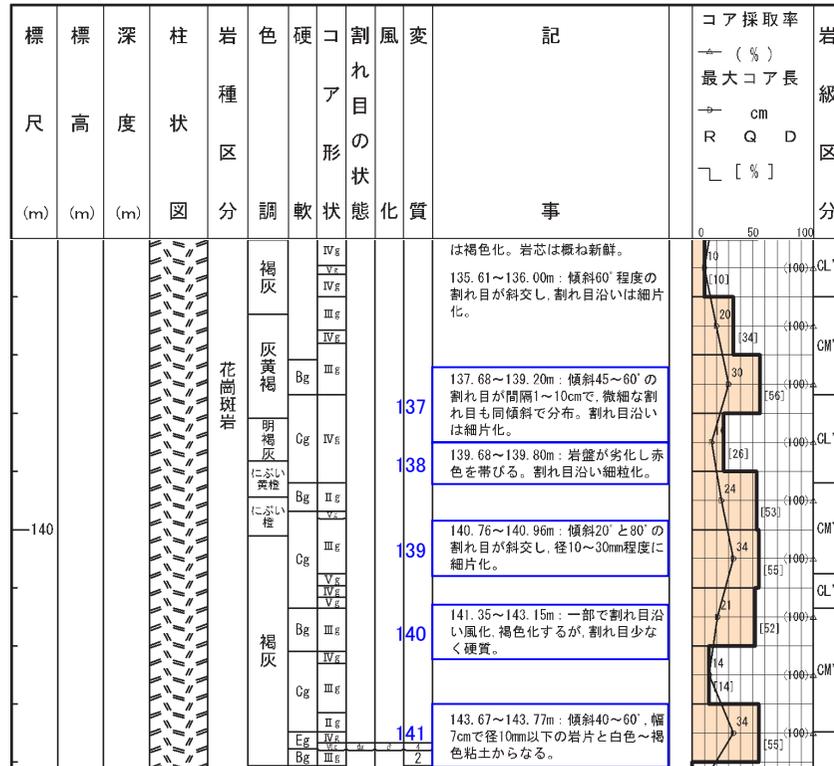


申請書用柱状図

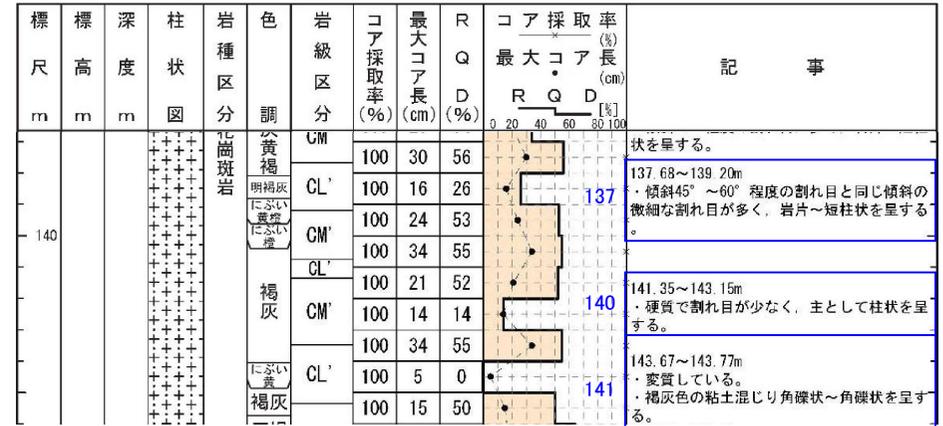


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
124	・変更なし
125	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
126	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・脱色、長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的な特徴の記載であるため削除。
127	・割れ目治いに劣化するが、当該区間の周囲と明確な差異がないことから削除。
128	・軟質化を伴う岩盤の劣化については、岩級区分で示しているため削除。
129	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
130	・割れ目治いで細片化するが掘削時の機械割れと判断し削除。
131	・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・傾斜60° → 50° ※2

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

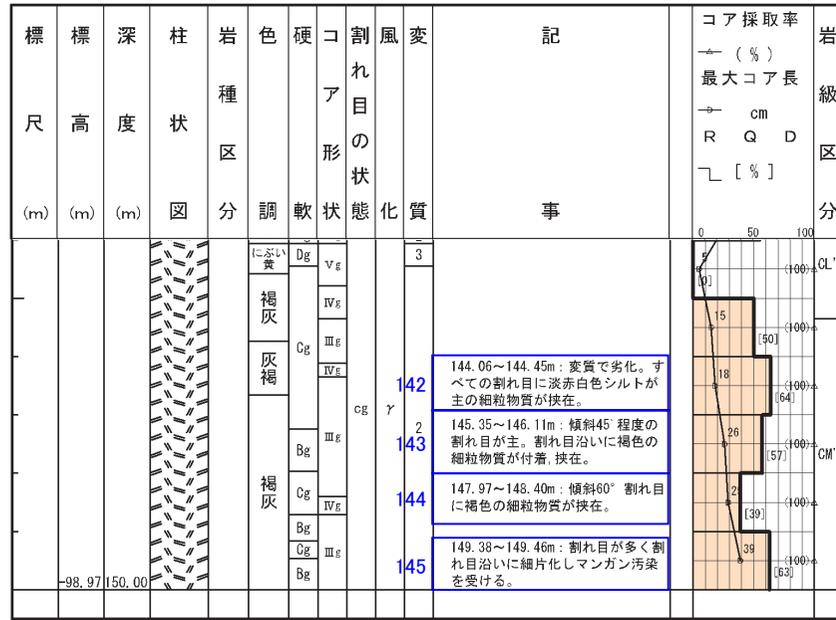


申請書用柱状図

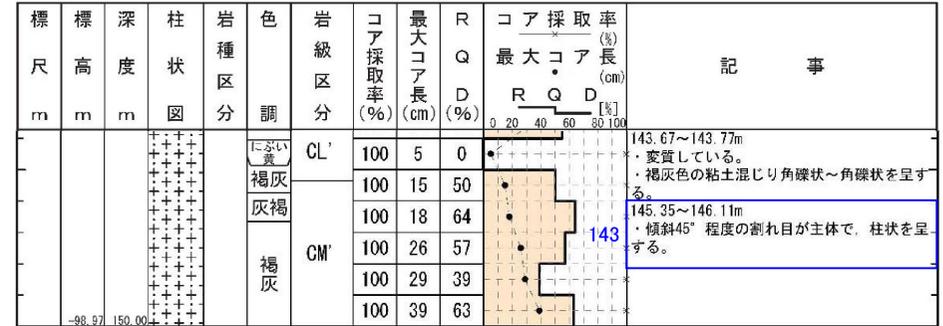


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
137	<ul style="list-style-type: none"> “コア形状”欄に基づき岩片~短柱状と記載。 割れ目沿いの細片化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
138	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いで細粒化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
139	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
140	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 割れ目沿いの風化、変色については、補足的なものであるため削除。
141	<ul style="list-style-type: none"> “変質”欄に基づき、変質していると記載。 “色調”欄に基づき、褐灰色と記載。 表現の見直し(径10mm以下の岩片と白色~褐色粘土からなる→粘土混じり角礫状~角礫状)。 見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 礫状を呈する区間の幅を記載しないこととしているため、幅7cmとの記載については削除。 粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから、粘土混じり角礫状に含めて示すこととして削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
142	<ul style="list-style-type: none"> 劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 一部に細粒物質を挟在するが、系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
143	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 細粒物質を挟在するが、幅狭く、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
144	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いに褐色の細粒物質を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
145	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度は、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いで細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目沿いのマンガン汚染については、補足的なものであるため削除。

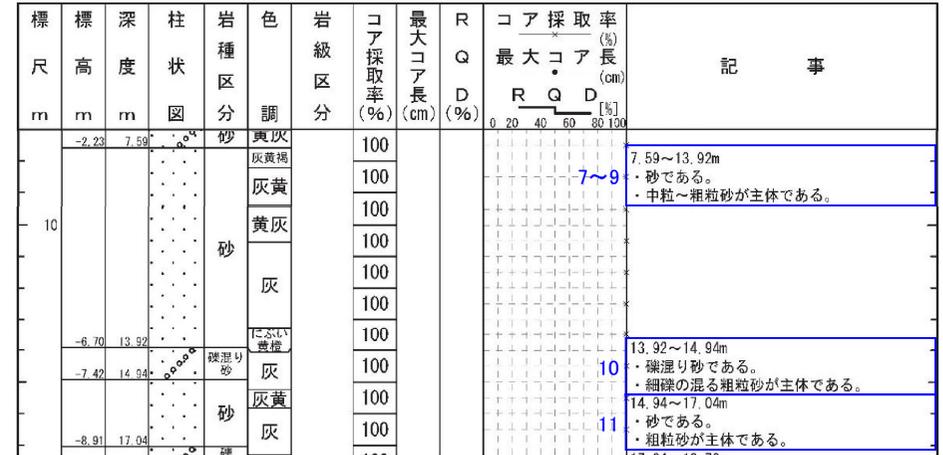
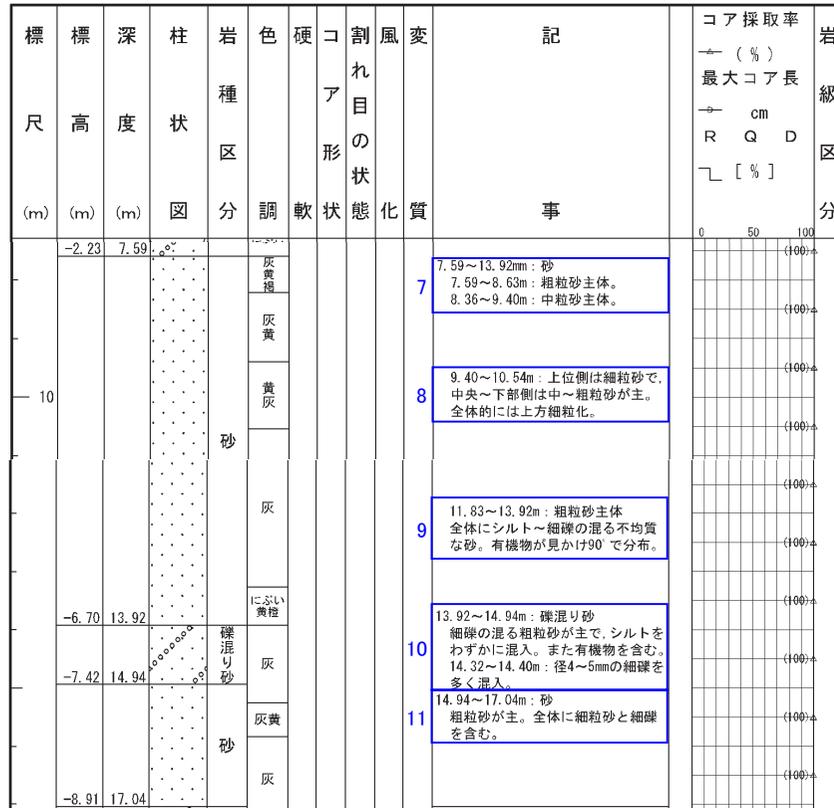
余白

H24-B11-2

余白

報告書作成用柱状図
(H26年12月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
7~9	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中粒~粗粒砂主体であることを記載。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細礫の混る粗粒砂が主体であることを記載。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、粗粒砂が主体であることを記載。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-8.91	17.04			灰									
	-10.10	18.73		礫混り砂						12 17.04~22.69m:砂質土(8sm層) 17.04~18.73m:礫混り砂 径2~4mmの石英細礫を含む細~中粒砂。上位と比べて礫率低く約10%。少量の有機物含む。				
	-10.33	19.05		砂質砂						13 18.73~19.05m:礫質砂 細~中粒砂が主で、径2~5mmの細礫10~20%、径1~3mmの炭質物を混入。				
	-12.90	22.69		有機質土混り砂	黄灰					14 19.05~22.69m:有機物混り砂 細~中粒砂が主で、粗粒砂~細礫をわずかに混入。径2~10mm、最大50mmの炭化物が散在。				
	-14.63	25.13		シルト・礫混り砂・砂礫互層	褐灰					15 22.69~22.65m:中~細粒砂主体。 2mm以下の片状もしくは繊維状の有機物が散在。				
	-14.63	25.13		礫混りシルト質砂	灰オリーブ					16 22.69~26.19m:砂質土主体(Ca1層) 22.69~25.13m:シルト・礫混り砂、砂礫互層 シルト・礫混り砂は中粒砂が主で、径10~40mmの垂角~垂円礫を含む。単層厚は20~70cm。 砂礫は径10~50mmの垂角~垂円礫を40~60%含み、基質はシルト混り中粒砂。単層厚は20~40cm。地層境界に有機質砂が挟在。				
					灰黄					17 25.13~26.19m:礫混りシルト質砂 径2~5mmの石英、及び5~40mmの垂角~垂円礫を数~15%含む。				

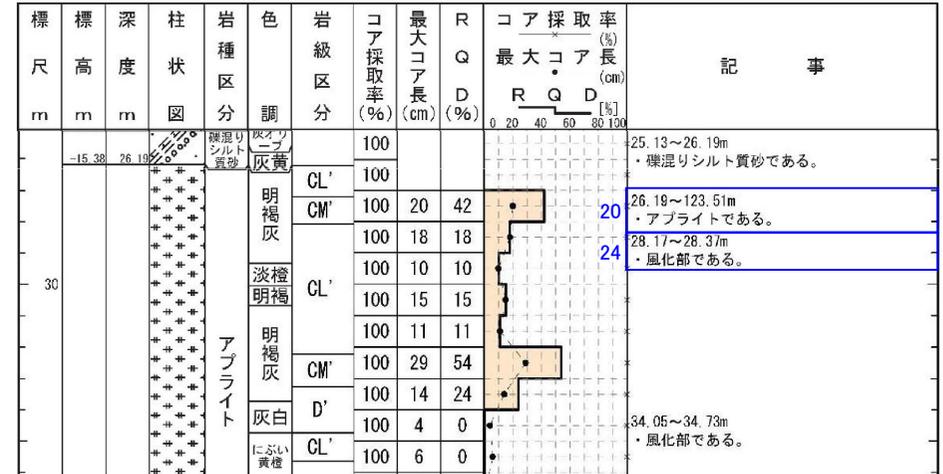
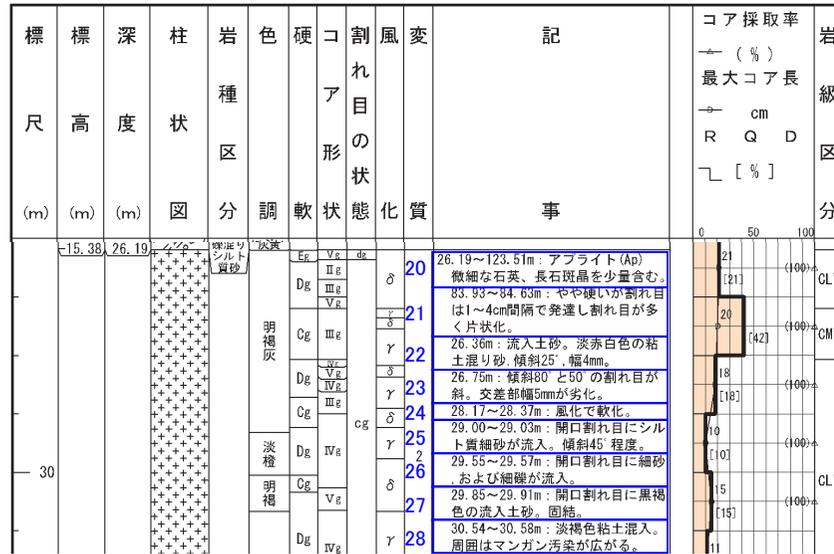
申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-8.91	17.04			灰		100					・砂である。 ・粗粒砂が主体である。
	-10.10	18.73			礫混り砂		100				13	17.04~18.73m ・礫混り砂である。 ・粗粒砂が主体である。 ・有機物を少量含む。
	-10.33	19.05			砂質砂		100				14	18.73~19.05m ・礫質砂である。
	-12.90	22.69			有機質土混り砂		100				15, 16	19.05~22.69m ・有機質土混り砂である。
	-14.63	25.13			シルト・礫混り砂・砂礫互層	褐灰	100				18	22.69~25.13m ・シルト・礫混り砂、砂礫互層である。 ・中粒砂が主体で、径10~50mmの垂角~垂円礫を40~60%含む。
	-15.38	26.19			礫混りシルト質砂	灰オリーブ 灰黄	100				19	25.13~26.19m ・礫混りシルト質砂である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
12	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂質土とのまとめ書きについては削除。
13	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、粗粒砂主体であること及び、有機物を少量含むことを記載。 ・粒度については、粗粒砂が主体であると見直し。
14	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
15, 16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂質土主体とのまとめ書きについては削除。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中粒砂が主体であることを記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度、礫率を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

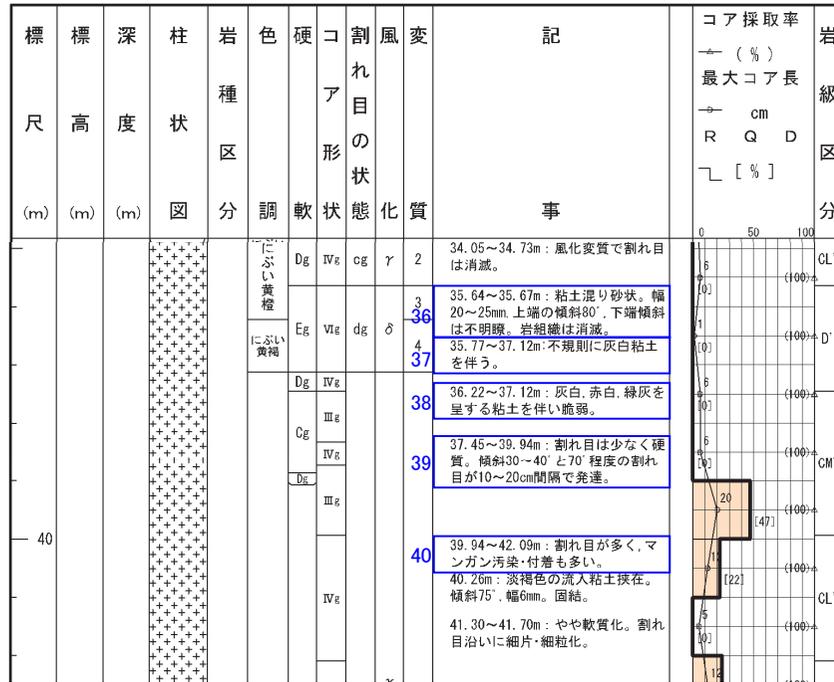
報告書作成用柱状図
(H26年12月)

申請書用柱状図

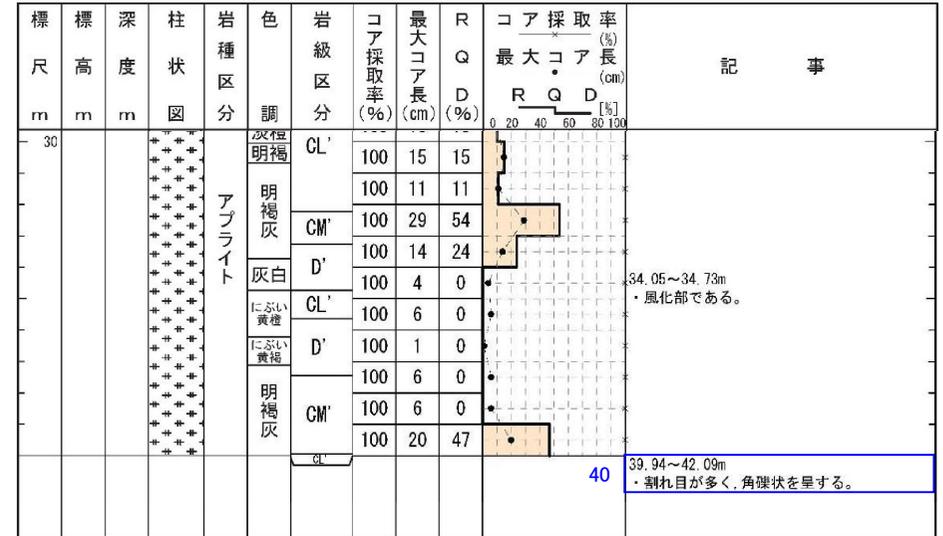


記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
20	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
21	・報告書作成用柱状図において83.93-84.63mの記事を誤って20m区間に記載したものの。 ・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
22	・流入土砂については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
23	・劣化の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。
24	・軟化の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。
25	・シルト質細砂の流入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
26	・細砂及び細礫の流入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
27	・土砂の流入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
28	・粘土の混入については、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)



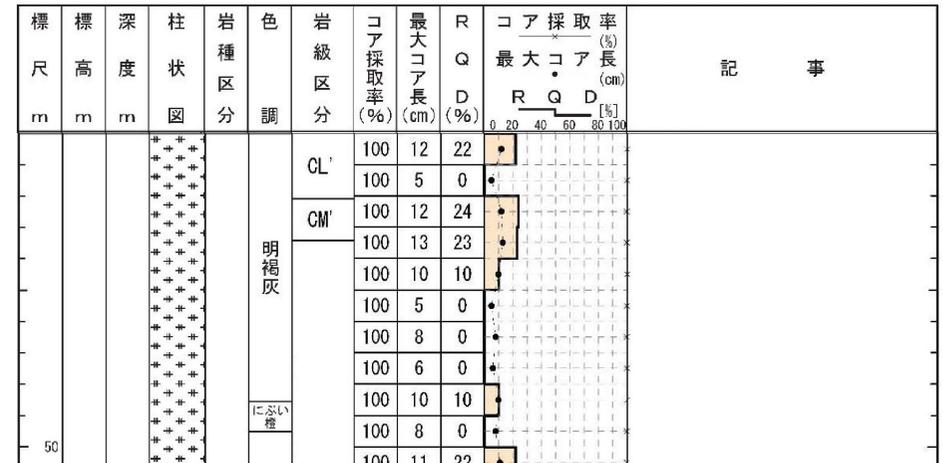
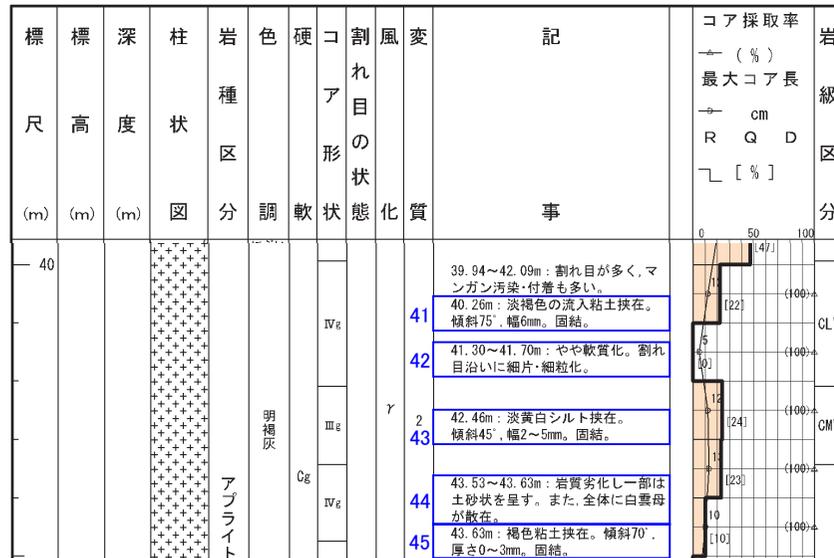
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
36	・粘土混じり砂状の下面は直線性がなく、礫の周囲に不規則に充填しており、礫にも定向配列が認められないことから削除。
37, 38	・一部で粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・脆弱化の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
39	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
40	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と追記。 ・割れ目沿いのマンガンについては、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)

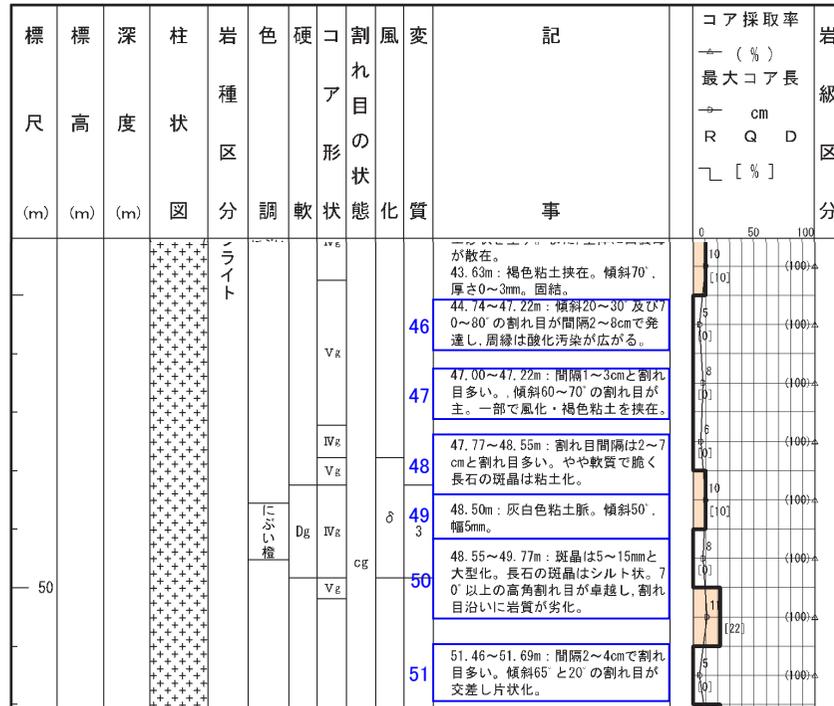
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
41	・流入粘土の挟在については、細粒分が割れ目を充填したものであり、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目沿いに細片化しているが、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
43	・シルトを挟在するが、直線性や連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
44, 45	・一部で土砂状を呈し粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)

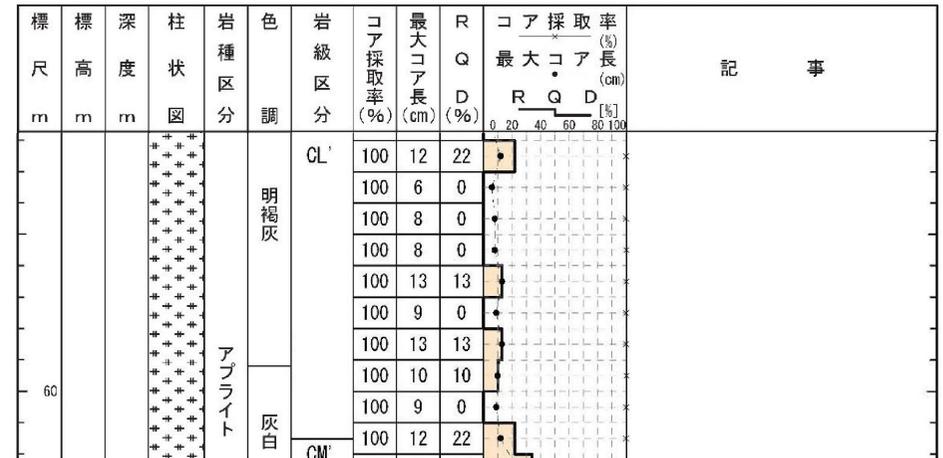
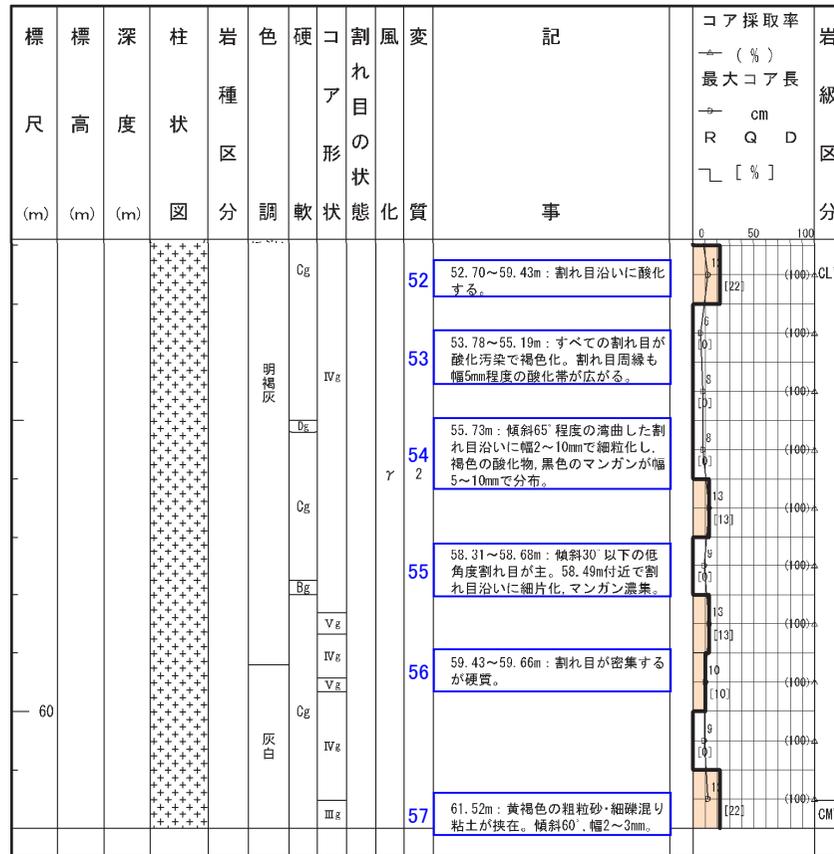
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
46	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・酸化汚染については、補足的なものであるため削除。
47	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。
48	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・長石の粘土化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
49	・粘土脈を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
50	・一般的な岩相であり、斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・劣化及び割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
51	・割れ目沿いに片状化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。

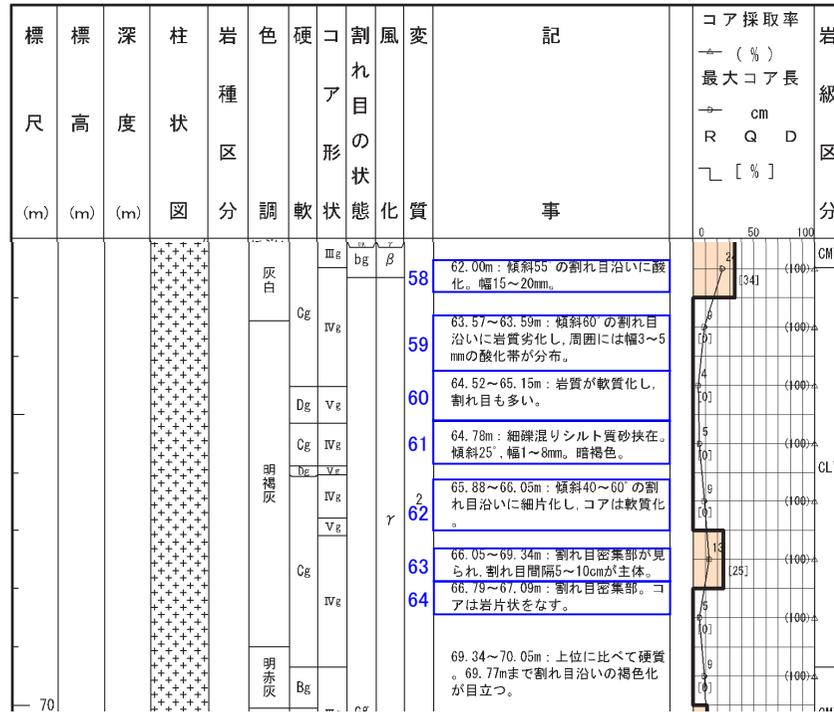
報告書作成用柱状図
(H26年12月)

申請書用柱状図

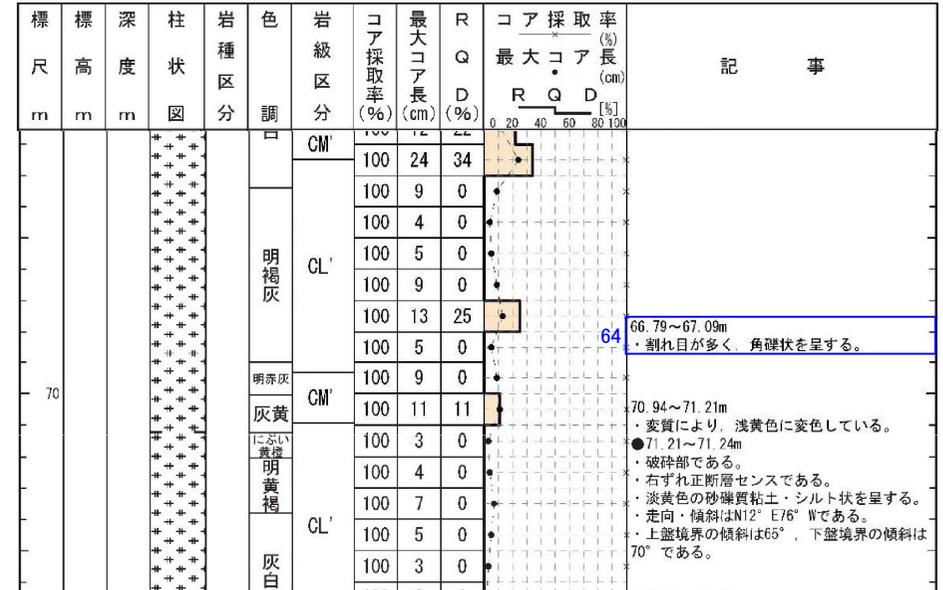


記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
52	・割れ目沿いの酸化については、補足的なものであるため削除。
53	・割れ目沿いの酸化については、補足的なものであるため削除。
54	・割れ目沿いに細粒化するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの酸化物、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
55	・割れ目沿いに細片化するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目沿いのマンガン濃集については、補足的なものであるため削除。
56	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
57	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)

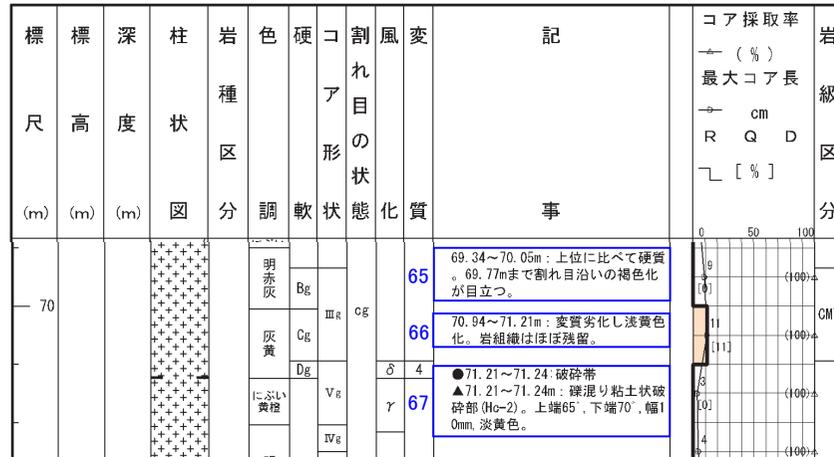


申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
58	・割れ目沿いの酸化については、補足的なものであるため削除。
59	・割れ目沿いに劣化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの酸化については、補足的なものであるため削除。
60	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
61	・細礫混りシルト質砂を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
62	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
63	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
64	・“コア形状”欄に基づき角礫状と追記。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)

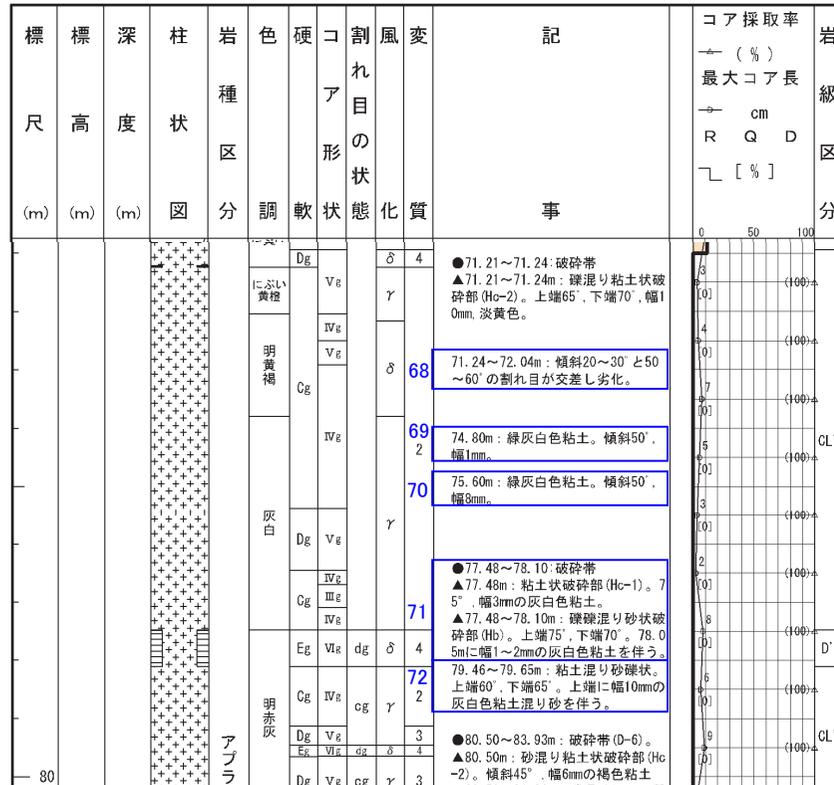


申請書用柱状図

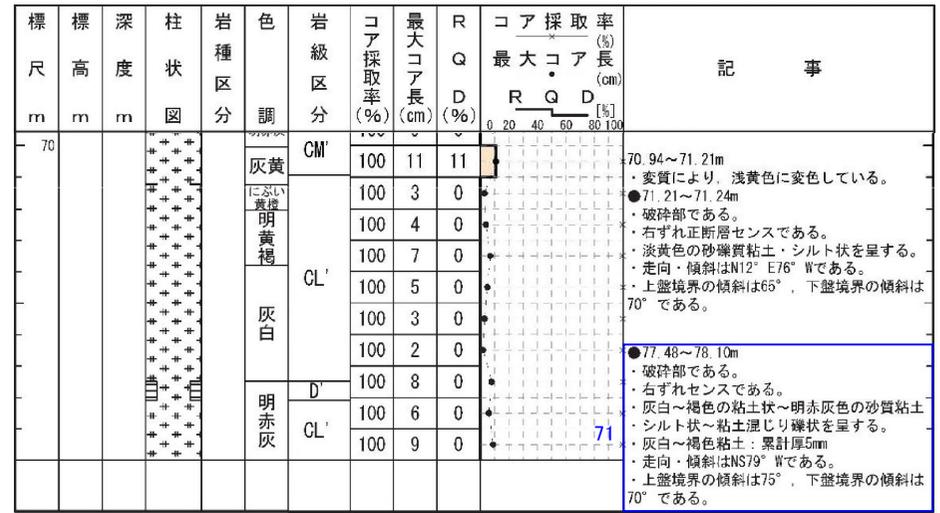


記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
65	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
66	<ul style="list-style-type: none"> ・変質を伴う岩盤の劣化については、岩級区分で示しているため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
67	<ul style="list-style-type: none"> ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調・粒度について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)



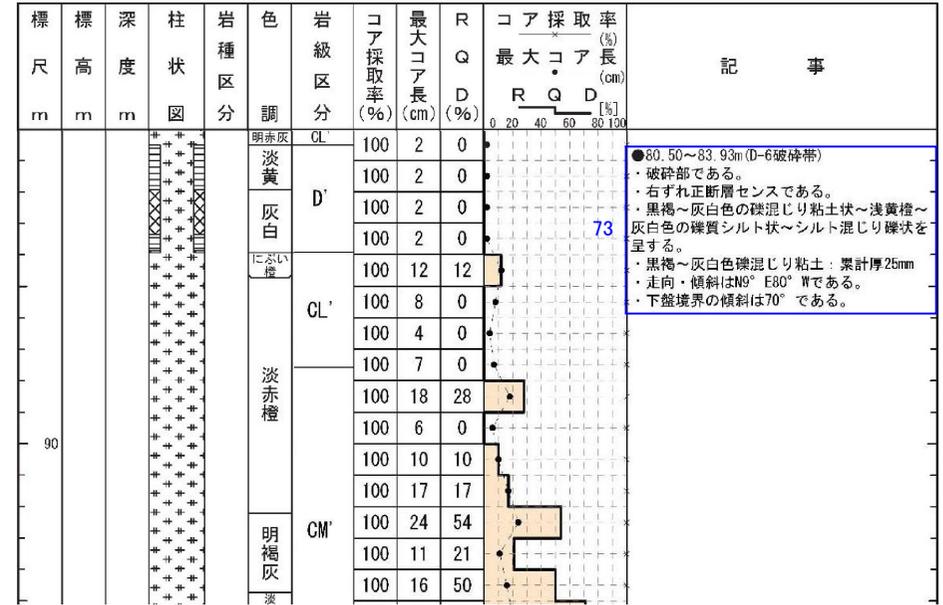
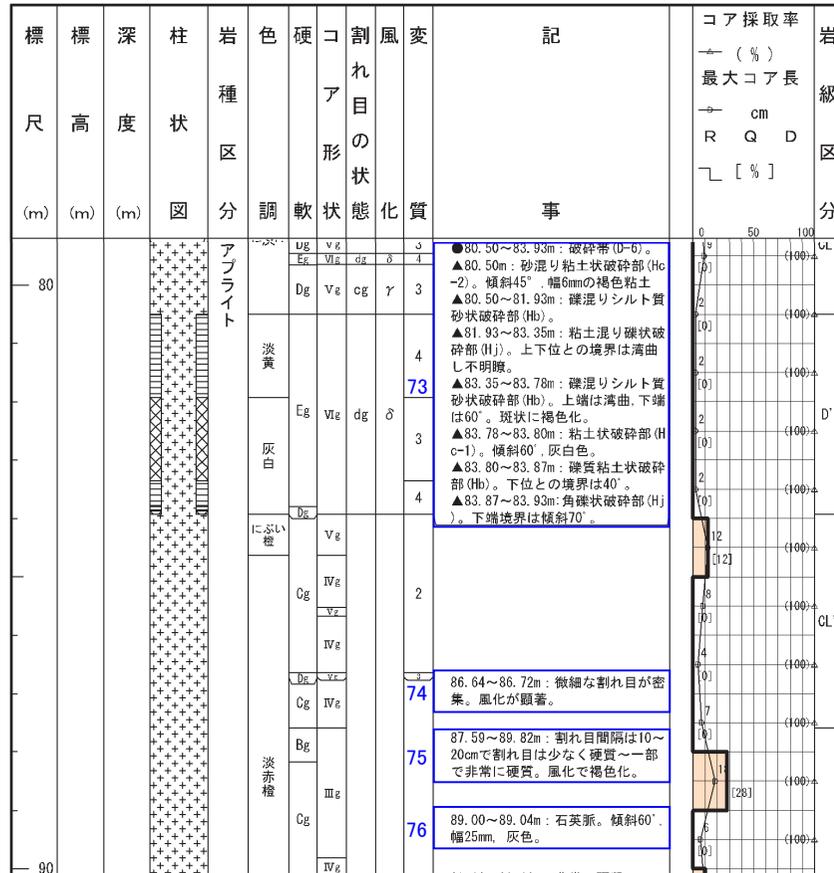
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
68	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
69	・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
70	・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
71	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の色調, 累計幅については、報告書作成用柱状図の幅の最大値の合計を記載。 ・78.05mの粘土の色調を褐色に見直し。 ・“色調”欄に基づき、明赤灰色と記載。 ・申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき、砂質粘土・シルト状～粘土混じり礫状と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
72	・粘土混じり礫状を呈し、粘土混じり砂を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年12月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年12月)⇒申請書用柱状図
73	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粒度、色調、粘土の累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
74	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・風化程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
75	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・風化程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。
76	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

